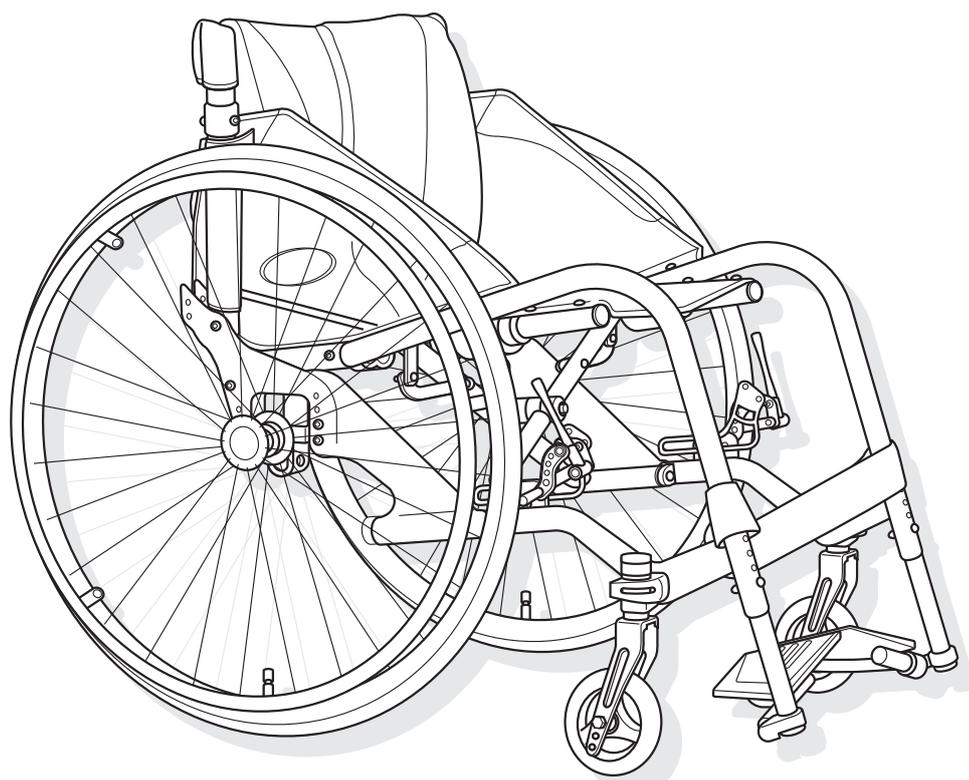


# MAX PLEASURE

## 取扱説明書

保存用  
保証書付



愛の輪  
愛のいす



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。

ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、保証書(裏表紙)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は改良などによりこの「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または直接弊社までお問い合わせください。

## 同梱部品一覧表

### 付属品

以下の物が同梱されているか、確認してください。

#### 六角レンチ



対辺3mm  
1本



対辺4mm  
1本



対辺5mm  
1本

#### スパナ



対辺8・10mm  
2本



対辺22・24mm  
2本

●万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または弊社にご連絡ください

### ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)

**もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。**

## 目次

安全にお使いになるためのご注意	2
各種機能一覧	6
各部の名称	6

<b>安全にお使いになるための使用方法</b>	8
駐車用ブレーキの使用方法	8
ブレーキの調整	9
フットサポートの高さ調整	10
フットサポートの角度調整	10
T.S.S／パイプジョイントフットサポート	11
セパレートフットサポート／ハイマウントセパレートフットサポート	11
アジャスタブルフットサポート	12
バックサポートの高さ調整	13
背張りベルトの張り調整	13
ダイナミックカーボンコンポジット	14
アクスルブラケット	14
モノコックリアサスペンション	16
アジャスタブルホール	16
アジャスタブルアクスルブラケット	17
前座高に関わる調整	18
フット・レッグサポートスイングアウト	20
オプション部品	21
車いすの拡げ方	26
車いすの折りたたみ方	26
着脱式駆動輪の外し方	26
着脱式駆動輪の取付け方	27
乗り方・降り方	27
動かし方	28
段差の乗りこえ方	28
車いすの安全な持ち方	29
外出時の注意	29
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b>	30
<b>メンテナンス</b>	31
点検	31
お手入れ方法	31
<b>仕様諸元</b>	32
保管場所・保証・アフターサービス	37
保証書	37

# 安全にお使いになるためのご注意



## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

### お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この表示は、必ずしていただく「強制」内容です。



## 警告

(禁止)



しては  
いけない

- 故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。  
ケガ、転倒・転落事故等の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。  
また、タイヤのパンクの原因となります。
- フットサポートプレート挿し込み部にすき間がある状態で使用しないでください。  
使用中にフットサポートが外れ転倒・転落事故等の原因となります。
- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。  
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、  
車いすの破損や転倒・転落事故等の原因となります。
- ホイールを外した状態で、転倒防止ユニットの車輪を駆動輪の代わりにして使用しないでください。  
車いすが破損して、転倒・転落事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
ユーザーが車いすから転落して事故等の原因となります。
- 使用中は駆動輪中央のロックピンを押さないでください。  
駆動輪が外れて、転倒・転落事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。  
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを押す時は、スピードを出さないでください。  
ユーザーが車いすから転落して事故等の原因となります。
- バックをしながら急停止をしないでください。  
転倒事故等の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。  
タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。  
転倒・転落事故等の原因となります。

## 警告

- 車いすに乗り降りする際は、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。  
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- ブレーキの調整後は、ブレーキが確実にかかることを確認してください。  
駐車時にブレーキがかからず、事故の原因となります。
- フットサポート高さ調整後は、高さ調整パイプが確実に固定されていることを確認してください。  
使用中に外れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートの高さは、地面から50mm以上確保してください。  
路面の凹凸や障害物に引っかかり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 左右が独立したフットサポートは、必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。  
フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。
- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。  
使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてケガの原因となります。
- フットサポートの調整角度に注意してください。  
部品の破損やケガ、転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポートの高さ調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。  
使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポート角度調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。  
使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。  
駐車用ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。
- キャストケースの高さ調整は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。  
車いすの破損や転落事故等の原因となります。
- キャストフォークの穴位置変更時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。  
車いすの破損や転落事故等の原因となります。
- キャストの角度調整後は、キャスト角度が確実に固定されていることを確認してください。  
使用中、キャストの角度が変わり、車いすの破損や転倒・転落事故等の原因となります。
- アジャスタブルキャストケース固定ボルトを外したときは、  
キャストケースの高さがずれないように注意してください。  
車いすが傾いて正常な状態でなくなるため、車いすの破損や転倒・転落事故等の原因となります。
- ご使用前は、駆動輪が確実に固定されていることを確認してください。  
使用中に外れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行なってください。  
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 乗り降りの際、介助が必要な方は、必ず介助者が付き添ってください。  
バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすに人が乗った状態で車いすを持ち上げるときは、声をかけ合って、  
皆同時にゆっくりと持ち上げていただくようにしてください。  
持ち上げたとき座面が斜めになり、バランスをくずして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側にたち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。  
前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートに足が乗っているか確認して走行してください。  
ケガや転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



していただく

## 注意

### (禁止)



しては  
いけない

- フットサポートプレートを後方へ90度以上起こさないでください。  
バネの破損の原因となります。
- 車いすを拡げる時に、シートパイプの横や下に、手や指を入れないでください。  
パイプとパイプの間に手や指を挟んでケガをする原因となります。
- 車いすを拡げた時、シートパイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。  
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。  
駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。  
手や指を挟んで、ケガ等をする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。  
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、  
車いす用の手袋(オプション)をご使用ください。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態で  
グリップを持って持ち上げないでください。  
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。  
物の重みで車輪フレームが曲がったりして故障の原因となります。

## 注意

(強制)



必ずして  
いただく

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないように注意してください。  
ケガ等の原因となります。
- フットサポート角度調整後は、自然にフットサポートが跳ね上がることを確認してください。  
車いすの故障の原因となります。
- フットサポート前後調整ボルトは必ず締めてください。  
フットサポートが外れケガをする恐れがあります。
- キャスト輪固定ボルトをしめた後、必ずキャスト輪が回転することを確認してください。  
回転しない場合は、回転するようボルト・ナットを調整してください。
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。  
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。
- ストレートアームサポートを戻すときは、確実に最後まで戻してください。  
使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- ストレートアームサポート高さ調整後は、ストレートアームサポートが確実に固定されていることを確認してください。  
使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- ストレートアームサポートの高さ調整後は、正常に機能するか確認してください。  
部品の破損やケガ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車軸位置を変更された時は、必ずストレートアームサポートの跳ね上げ動作を確認してください。  
場合によっては、パイプ等のすき間で指や手などを挟んでケガをする原因になります。
- 転倒防止使用時は、必ずピンが溝にはまって確実にロックされていることを確認してください。  
転倒防止機能が働かなくなり、事故の原因となります。
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。  
ケガ等の原因となります。

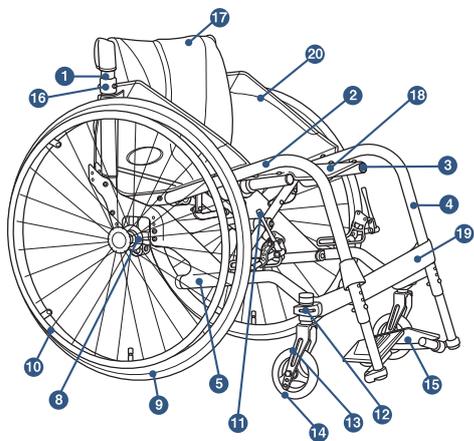
# 各種機能一覧

機種	品番	キャスト	車軸部	
			車軸ホルダー	特徴
クロスライン	CL-R	3Dスマートキャストシステム	アクスルブラケット	ダイナミック カーボンコンポジット
	CL-X		モノコックリアサスペンション	
S-MAX	S-MAX	3Dスマートキャストシステム	アジャスタブルホール	イージーパターンセレクト
A-MAX	A-MAX	3Dスマートキャストシステム	アジャスタブルアクスル	イージーパターンセレクト
A-MAX Swing	A-MAX Swing	3Dスマートキャストシステム	アジャスタブルアクスル	イージーパターンセレクト
Suai	NR-P	スマートキャストシステム	Suai用アジャスタブルホール	イージーパターンセレクト

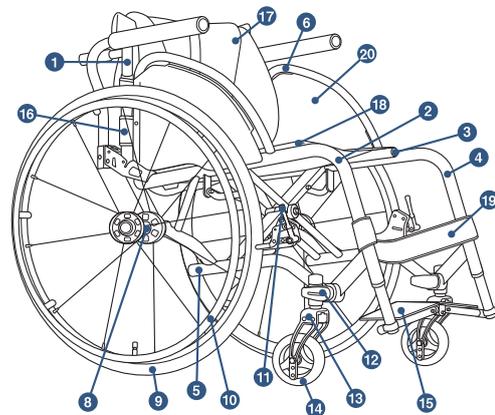
## 各部の名称

- ① バックサポートパイプ
- ② シートサイドパイプ
- ③ シートパイプ
- ④ レッグパイプ
- ⑤ ベースパイプ
- ⑥ アームパイプ
- ⑦ プッシュアップユニット
- ⑧ 車軸
- ⑨ 着脱式駆動輪
- ⑩ ハンドリム
- ⑪ 駐車用ブレーキ
- ⑫ スマートキャストシステム
- ⑬ キャスタフォーク
- ⑭ キャスタ輪
- ⑮ フットサポート
- ⑯ 背張りベルト
- ⑰ 背クッション
- ⑱ 座シート
- ⑲ レッグサポート
- ⑳ サイドガード

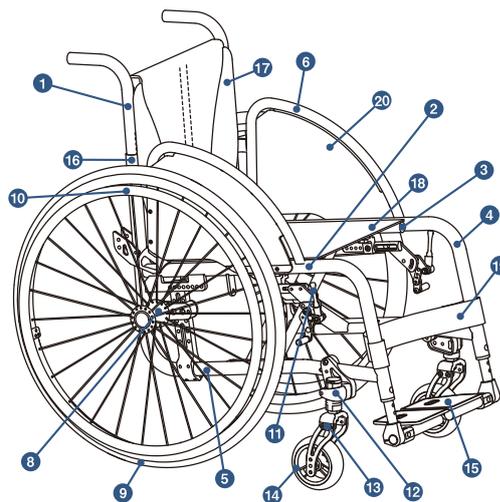
**MAX クロスライン (ノーマル)**



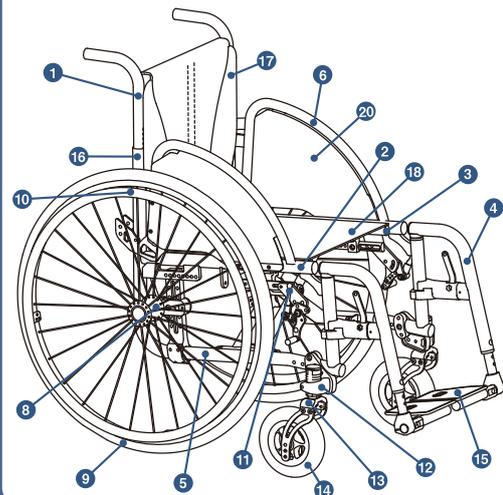
**S-MAX**



**A-MAX**

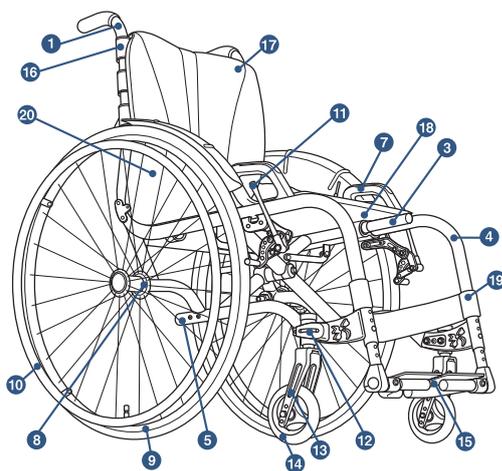


**A-MAX Swing**



**Suai**

(※オプション:プッシュアップバー付)



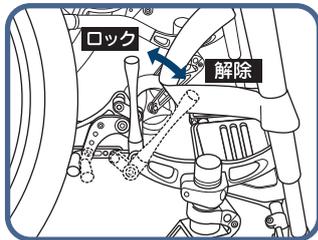
# 安全にお使いになるための使用方法

## 駐車用ブレーキの使用方法

●駐車時には、駐車用ブレーキをかけ、車輪の回転をロックします。

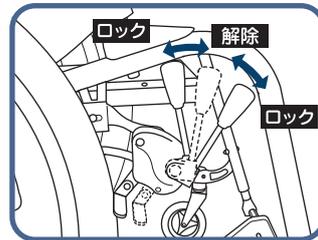
### Mタックルブレーキ

ブレーキバーを後方に倒すとロックがかかり、前方に倒すと解除されます。



### FBタックルブレーキ

ブレーキバーを後方または前方に倒すとロックがかかり、中央に戻すと解除されます。



### 警告

●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。

してはいけな

### 警告

●車いすに乗り降りする際は、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。  
車いすが動き、転倒事故の原因となります。

していただく

## ブレーキの調整

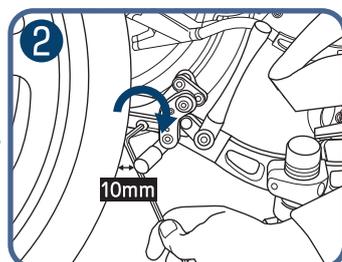
●ブレーキの位置と角度を調整できます。

使用工具 〈位置の調整〉対辺5mm六角レンチ 〈角度の調整〉Mタックル…4mm六角レンチ、10mmスパナ、FBタックル…4mm六角レンチ

① 六角レンチを用いて、ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。

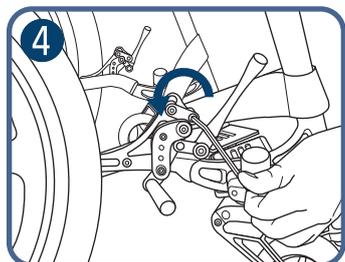


② ブレーキを解除した状態で、ブレーキシユウと車輪の間隔が約10mmのところ、ボルトを固定する。

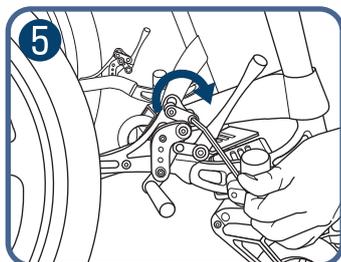


③ ブレーキの効き具合を確認する。

④ ブレーキの効きが悪い場合は、六角レンチ (Mタックルの場合はスパナも) を用いて、ブレーキ角度固定ボルトをゆるめる。



⑤ ブレーキの角度を調整し、ボルトを固定する。



⑥ ブレーキの効き具合を確認する。

### 警告

●ブレーキの調整後は、ブレーキが確実にかかることを確認してください。  
駐車時にブレーキがかからず、事故の原因となります。

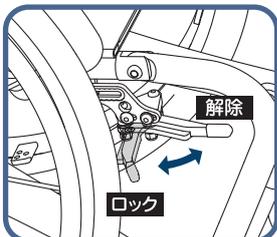
していただく

## 駐車用ブレーキの使用法

- 駐車時には、駐車用ブレーキをかけ、車輪の回転をロックします。

### シザーロック

ブレーキレバーを後方へスライドさせると、ロックがかかります。前方へスライドさせると解除されます。



### 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。

してはけない

### 警告

- 車いすに乗り降りする際は、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。車いすが動き、転倒事故の原因となります。

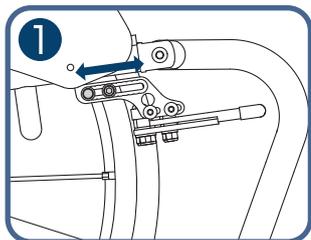
していただく

## ブレーキの調整

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ、対辺4mm六角レンチ、対辺10mmスパナ

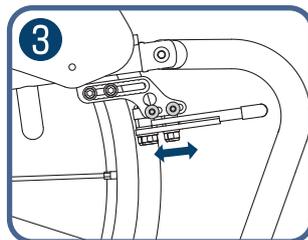
- ブレーキの調整を行う時は、ブレーキを解除した状態で行います。

- 1 対辺5mm六角レンチと対辺10mmスパナを用い、適当な位置にブレーキを調整します。



- 2 ブレーキの効き具合を確認する。

- 3 対辺4mm六角レンチを用い、ブレーキの位置の微調整を行います。



- 4 ブレーキの効き具合を確認する。

### 警告

- ブレーキの調整後は、ブレーキが確実にかかることを確認してください。駐車時にブレーキがかからず、事故の原因となります。
- ブレーキの調整を行う時は必ず車いすから降りて行ってください。転倒・転落事故等の原因となります。

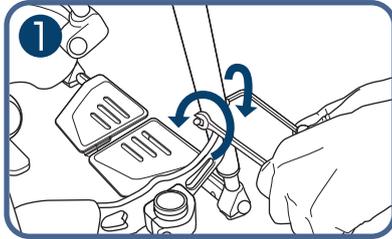
していただく

## フットサポートの高さ調整

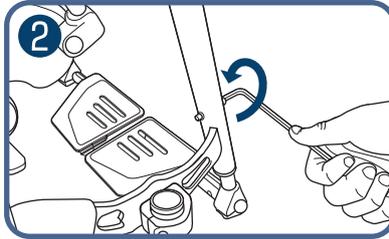
使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

●ユーザーに合わせ、フットサポートの高さを15mm間隔で調整できます。

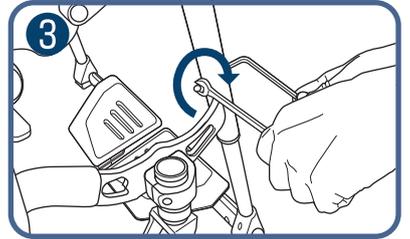
① 六角レンチとスパナを用いて、ナット、ボルトの順に外す。



② 高さを調整し、六角レンチを用いて、ボルトを奥までしめる。



③ ②のボルトを六角レンチで固定したまま、スパナを用いて、ナットをしめる。



### 警告

- フットサポート高さ調整後は、高さ調整パイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- フットサポート高さは、地面から50mm以上確保してご使用ください。路面の凹凸や障害物に引っかかり、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

## フットサポートの角度調整

### 注意事項

- フットサポートの角度調整を行った際は、必ず下記のことにご注意してください。

### 警告

- 左右が独立したフットサポートは、必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。
- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてけケガの原因になります。
- 以下の点で、フットサポートの調整角度にご注意ください。
  - ・調整角度が大きいと、車いすの折りたたみがしにくくなります。
  - ・調整角度が大きいと、地面との接触の恐れがあります。部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

### 注意

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないようにご注意ください。ケガの原因となります。

していただく

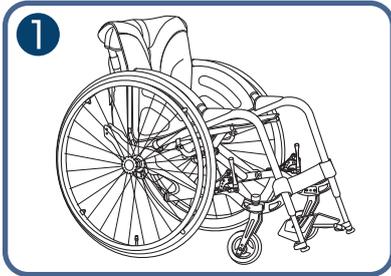
## T.S.S / パイプジョイントフットサポート

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

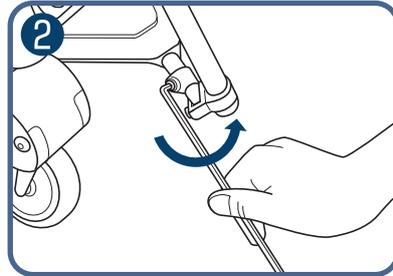
- 左右のフットサポートが真ん中で連結されたフットサポートです。車いすを折りたたむ時、自然とフットサポートも折りたたまれます。
- ユーザーに合わせて、フットサポートの角度を調整できます。

### 〈角度の調整方法〉

① 車いすを拡げた状態にする。



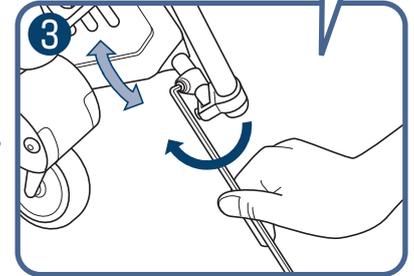
② 六角レンチを用いて、左右の角度調整ボルトをゆるめる。



必ず、フットサポートが上がった状態で行う。



③ 角度を調整し、六角レンチを用いて、ボルトをしめる。



### ⚠ 注意

- フットサポート角度調整後は、自然にフットサポートが跳ね上がることを確認してください。車いすの故障の原因となります。

していただく

### ⚠ 注意

- フットサポートプレートを後方へ90度以上起こさないでください。バネの破損の原因となります。

してはいけない

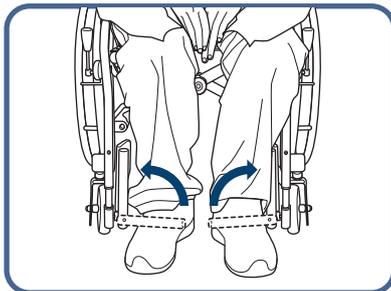
## セパレートフットサポート/ハイマウントセパレートフットサポート

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

- 左右が独立した一般的なフットサポートです。車いすを折りたたむ時、また車いすの前方から足を地面に降ろして乗り移りする場合は、フットサポートを跳ね上げます。
- ユーザーに合わせて、フットサポートの角度を調整できます。

### 〈車いすの前方から足を地面に降ろして乗り移る場合〉

フットサポートを跳ね上げて、乗り移りする。



### ⚠ 警告

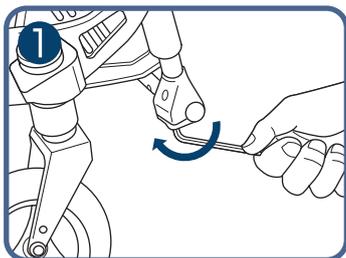
- 必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。



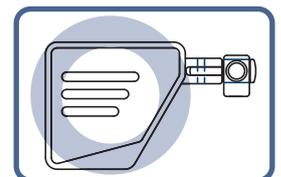
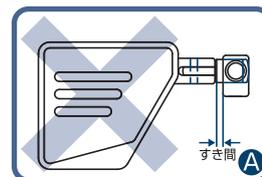
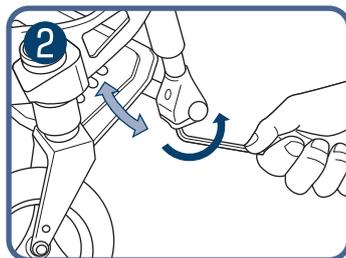
していただく

### 〈角度の調整方法〉

① 六角レンチを用いて、フットサポート高さ調整パイプの先端のボルトをゆるめる。



② 角度を調整し、六角レンチを用いて、ボルトをしめる。



### ⚠ 警告

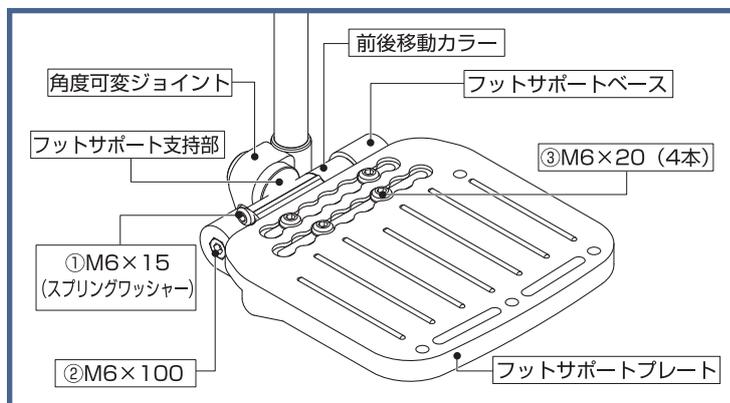
- フットサポートプレート挿し込み部Aにすき間がある状態で使用しないでください。使用中にフットサポートが外れ転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

# アジャスタブルフットサポート

使用工具 ・対角4mm/5mm

## 各部名称



- ※適正トルク
- ①M6×15 ……10Nm
  - ②M6×100 ……7Nm
  - ③M6×20 ……7Nm

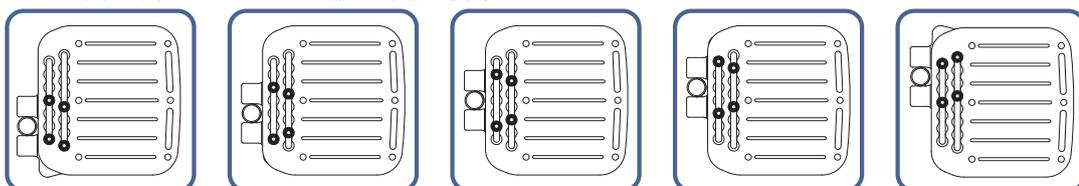
## 前後調整方法

### 基本的な調整方法

#### ● ボルト位置

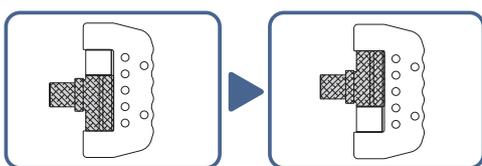
③M6×20(4本)を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット(4個)を無くさないようにしてください。下の図のように、前後5段階に調節ができます。(13mm間隔)4本のボルトを締めてください。

※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



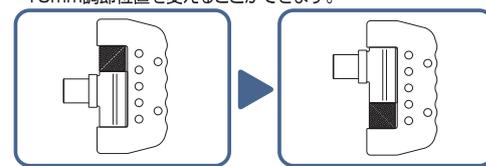
### さらに調整する方法 (その1)

②M6×100を取り外します。下の図のように、前後移動カラーを組み替えることで、さらに20mm調節ができます。



### さらに調整する方法 (その2)

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)  
※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで13mm調節位置を変えることができます。



## ⚠ 注意

- ① ② ③ のボルトは必ず締めて下さい。フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。

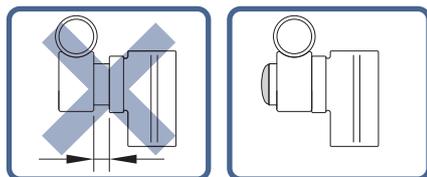
していただく

## 角度調整方法

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてしてください。フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



## ⚠ 注意

- すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。

してはいけない

位置が決まったら、①M6×15を締め、フットサポートが動かないか確認してください。

## ⚠ 注意

- ①のボルトは必ず締めてください。フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

していただく

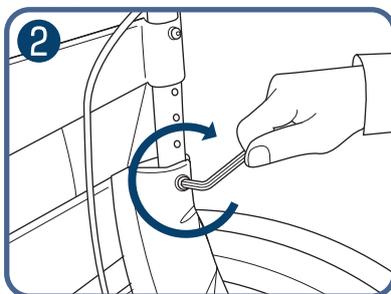
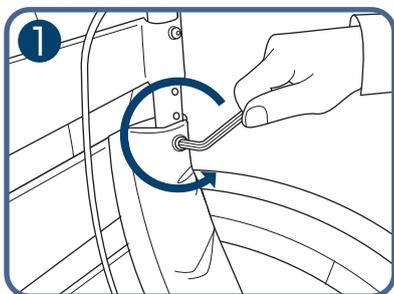
## バックサポートの高さ調整

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ

●ユーザーに合わせて、バックサポートの高さを10mm間隔で調整できます。

① 六角レンチを用いて、バックサポート固定ボルトを外す。

② 高さを調整して、バックサポート固定ボルトをしめる。



### ⚠ 警告

●バックサポート高さ調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。

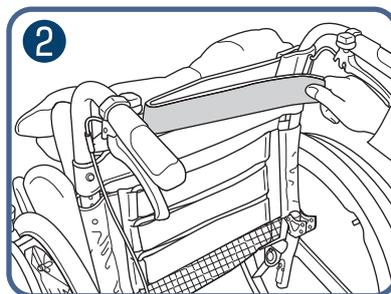
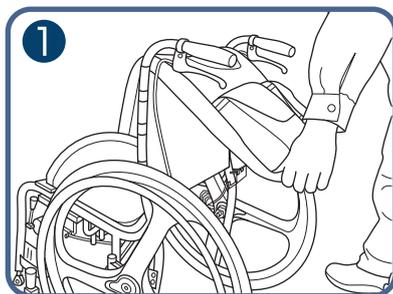
していただく

## 背張りベルトの張り調整

●ユーザーに合わせて、背張りベルトの張り具合を調整できます。

① 背クッション後ろ側のポケットの付いているタレをめくる。

② 背張りベルトのマジックをはがし、張りを調整して、再びマジックをはり合わせる。



### ⚠ 注意

- 背シート・座シートクッションのマジックテープは確実に固定してください。  
(固定していないと、シートがずれて、転倒・転落事故の原因となります。)
- マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いてください。  
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

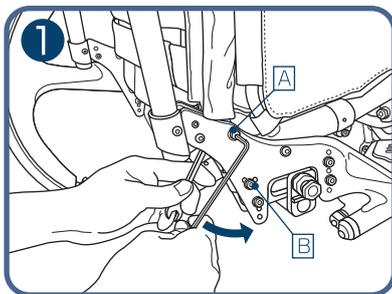
## ダイナミックカーボンコンポジット

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺8mmスパナ

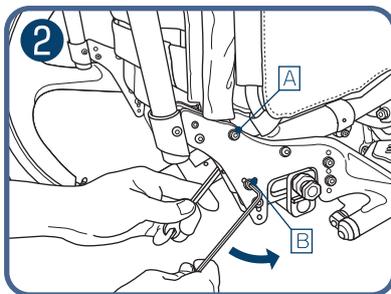
### バックサポートパイプの角度調整

●ユーザーに合わせて、バックサポートパイプの角度を86度・90度・94度の3段階で調整できます。

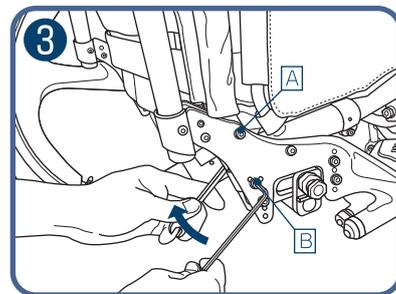
① 六角レンチとスパナを用いて、Aのボルトとナットをゆるめる。



② 六角レンチとスパナを用いて、Bのボルトとナットを外す。



③ 角度を調整して、A,Bのボルトをしめる。



**警告**

●バックサポート角度調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

## アクスルブラケット

使用工具

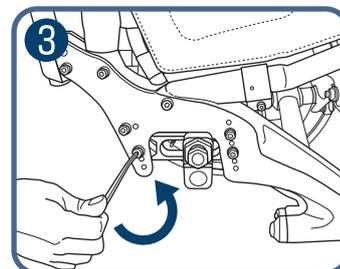
〈前方〉対辺5mm六角レンチ、対辺10mmスパナ 〈後方〉対辺4mm六角レンチ、対辺8mmスパナ

### 後座高さの高さ調整

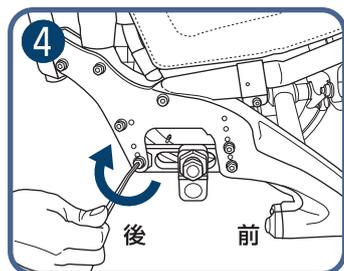
●駆動輪の位置を調整できます。③ 六角レンチとスパナを用いてアクスルブラケット固定ボルトを外す。

① 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)

② ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)



④ アクスルブラケットを移動し、ボルトをしめる。



⑤ 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

⑥ 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。  
(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)



**警告**

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

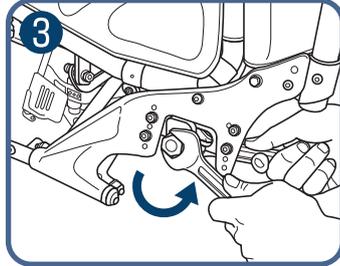
## ホイールベースの調整

●駆動輪の位置を調整できます。

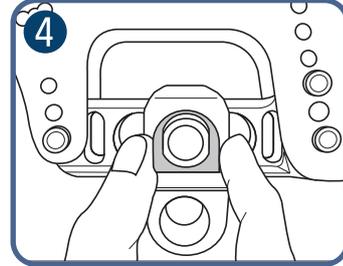
使用工具 対辺24mmスパナ 2本

- 1 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)

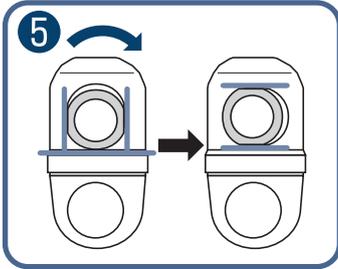
- 3 スパナ2本を用いて外側のナットを外す。



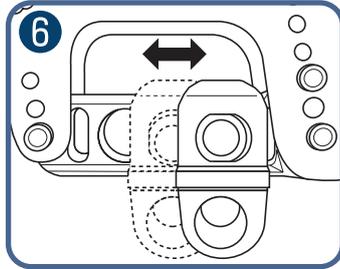
- 4 ホルダーガイドを外す。



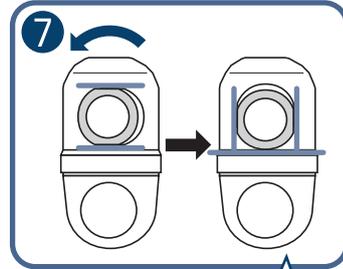
- 5 車軸ホルダーを90度回転させる。



- 6 車軸ホルダーを前後方向にスライドさせて左右同一の位置に移動する。

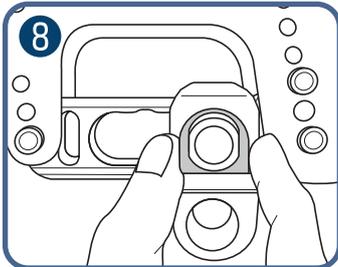


- 7 車軸ホルダーを90度戻す。

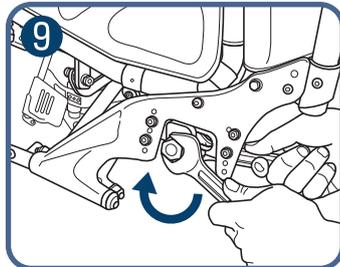


**POINT**  
サイドの面が垂直になるように合わせる。

- 8 ホルダーガイドを取付ける。



- 9 スパナ2本を用いて外側のナットをしめる。



\* 適正トルク 40Nm

- 10 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

- 11 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。  
(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)

### 警告

●駆動輪位置の移動時は、必ず駐車用ブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。駐車用ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

### 注意

●車軸ホルダーをスライドさせるため、90度回転させた後は、必ず、元に戻す方向に90度回転させてください。さらに90度回転させてしまうと、キャンバー角度が変わってしまいます。

していただく

## モノコックリアサスペンション

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

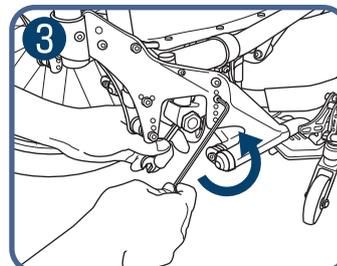
### サスペンションユニットの位置移動

●駆動輪の位置を調整できます。

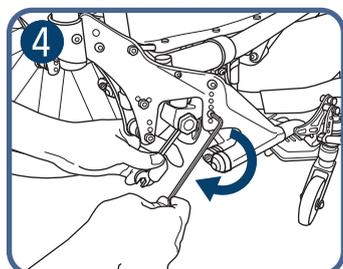
- ① 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)

- ② ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)

- ③ 六角レンチとスパナを用いて、サスペンションユニット固定ボルトとナットを外す。



- ④ サスペンションユニットを移動し、ボルトとナットをしめる。



- ⑤ 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

- ⑥ 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。  
(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)



**警告**

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

## アジャスタブルホール

使用工具 ・対辺24mmスパナ 2本

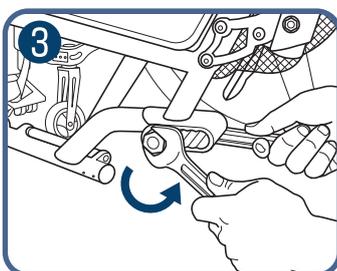
### ホイールベースの調整

\* 適正トルク 40Nm

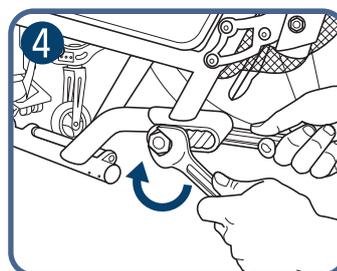
- ① 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)

- ② ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)

- ③ スパナを用いて車軸ホルダー、ガイドプレートとナットを外す。



- ④ 車軸ホルダーを左右同一の穴位置に移動し、ガイドプレートをフレーム外側にはめナットをしめる。



- ⑤ 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

- ⑥ 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)



**警告**

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

# アジャスタブルアクスルブラケット

\* 適正トルク 40Nm(車軸ホルダー)

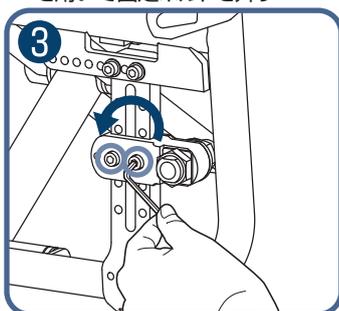
## 後座高の高さ調整

●ハブ取付けプレートの位置を調整できます。

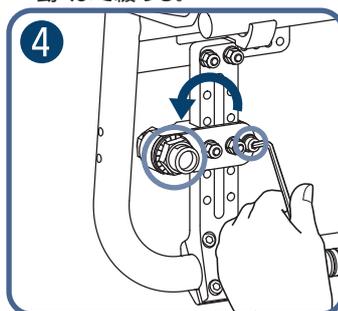
使用工具 対辺5mm六角レンチ、対辺10mmスパナ、対辺24mmスパナ

- 1 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)

- 3 六角レンチと対辺10mmスパナを用いて固定ボルトを外す



- 4 使用工具を用いて、車軸ホルダーと固定ボルトをプレートが上下に動くまで緩める。



- 5 プレートを移動し、逆手順でボルトをしめ、取付ける。

- 6 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

- 7 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。  
(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)



**警告**

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

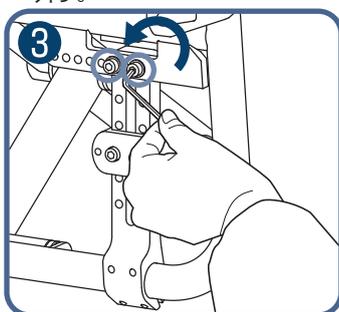
していただく

## ホイールベースの調整

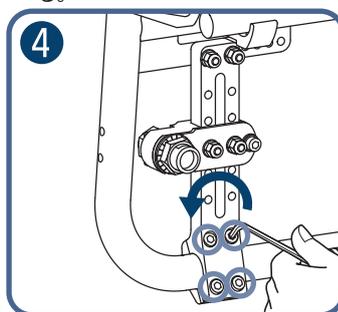
使用工具 対辺5mm六角レンチ、対辺10mmスパナ

- 1 駆動輪を外す。  
(→P.26駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。  
(→P.8ブレーキの調整)

- 3 使用工具を用いて、固定ボルトを外す。



- 4 六角レンチを用いて、固定ボルトをプレートが左右に動くまで緩める。



- 5 プレートを移動し、逆手順でボルトをしめ、取付ける。

- 6 駆動輪を取付ける。  
(→P.27駆動輪の取付け方)

- 7 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。  
(→P.8ブレーキの調整)  
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)



**警告**

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

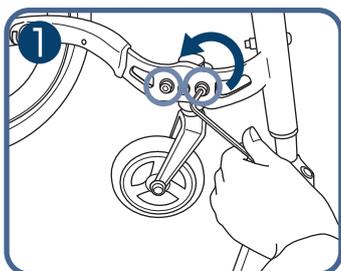
## 前座高に関わる調整

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

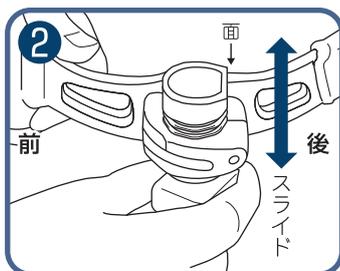
### キャストケースの高さ調整

●キャストケースの高さを変えることで前座高を調整できます。

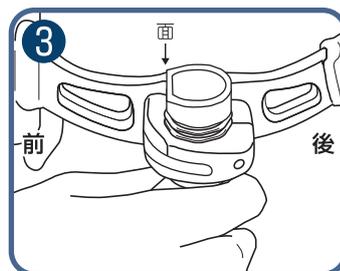
① アジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)をキャストケースの角度が自在に動くまでゆるめる。



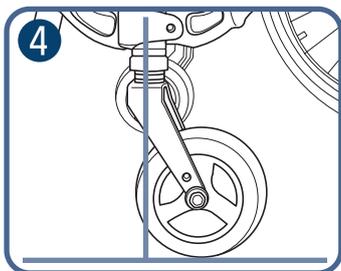
② キャストケースの面を後方に向け、スライドさせる。



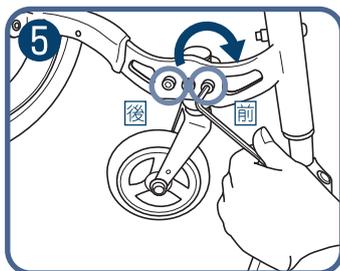
③ キャストケースを左右同じ高さに調整し、面を前方に向け直す。



④ キャストケースの角度を地面に対して垂直にする。



⑤ アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



#### 警告

●キャストケースの高さ調整時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。  
高さ調整後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。

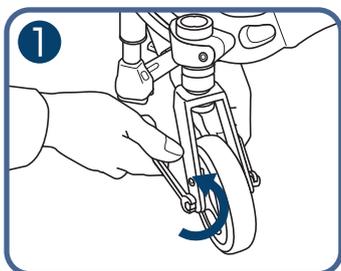
していただく

### キャストフォークの穴位置変更

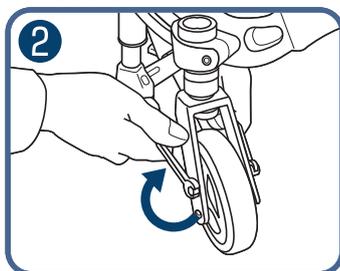
使用工具 ・対辺10mmスパナ2本

●フォークの穴位置を変えることで前座高を調整できます。

① キャスタ輪固定ボルトとナットを外す。



② 左右同じ穴位置にキャスト輪を移動し、キャスト輪固定ボルトとナットをしめる。



③ キャスタの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。  
(→P.19キャストの角度調整)

#### 警告

●キャストフォークの穴位置変更時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。  
穴位置変更後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。

していただく

#### 注意

●キャスト輪固定ボルトをしめた後、必ずキャスト輪が回転することを確認してください。  
回転しない場合は、回転するまでボルト・ナットをゆるめてください。

していただく

## キャストの角度調整

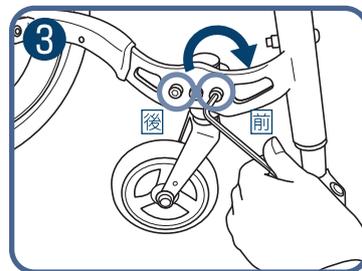
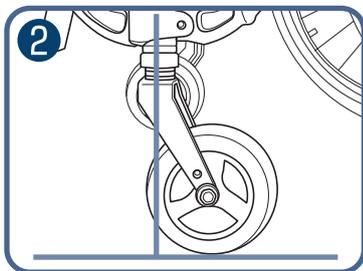
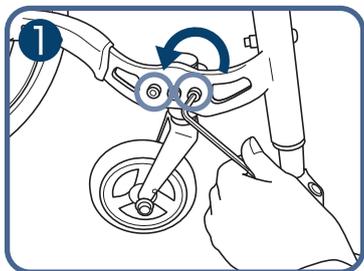
使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

●前座高、後座高の調整後は、必ずキャストの角度を地面と垂直にします。

① アジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)をキャストケースの角度が自在に動くまでゆるめる。

② キャストケースの角度を地面に対して垂直にする。

③ アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



**警告**

●キャストの角度調整後は、キャスト角度が確実に固定されていることを確認してください。  
使用中、キャストの角度が変わり、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。

していただく

### 角度調整をしてもキャストケースが地面に対して垂直にならないとき

●キャスト角度セレーションプレートを裏返すことにより、さらに細かい角度調整ができます。

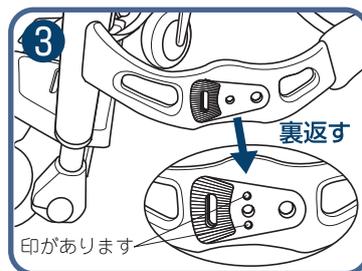
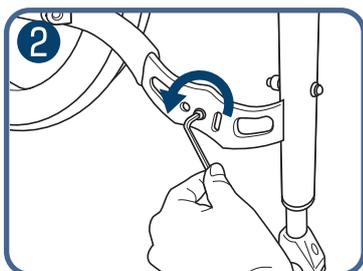
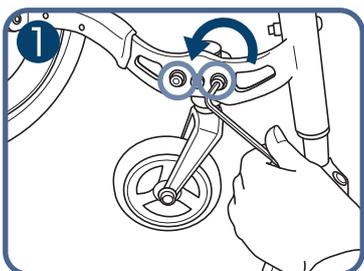
\*セレーションプレートには、目印のため、片面には2箇所には窪みが入っています。

\*アジャスタブルキャスト固定ボルトを外すと、キャストケースの高さがずれるため、外す前にあらかじめ、キャストケースの高さを確認しておいてください。

① 5mm六角レンチを用いてアジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)を外す。

② 3mm六角レンチを用いてキャストプレート固定ボルトを外す。

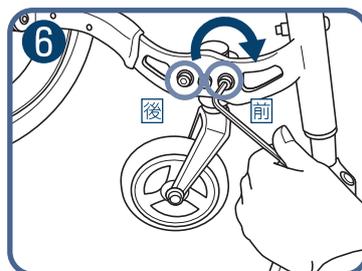
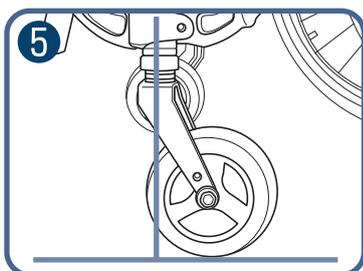
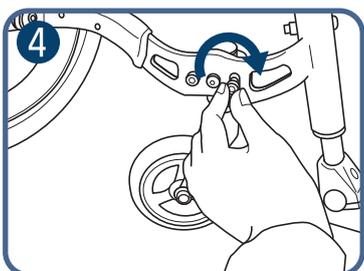
③ キャストプレートにはめられているセレーションプレートを裏返し、②のボルトを固定する。



④ アジャスタブルキャストケース固定ボルトを仮締めする。

⑤ キャストケースの角度を地面に対して垂直にする。

⑥ アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



**警告**

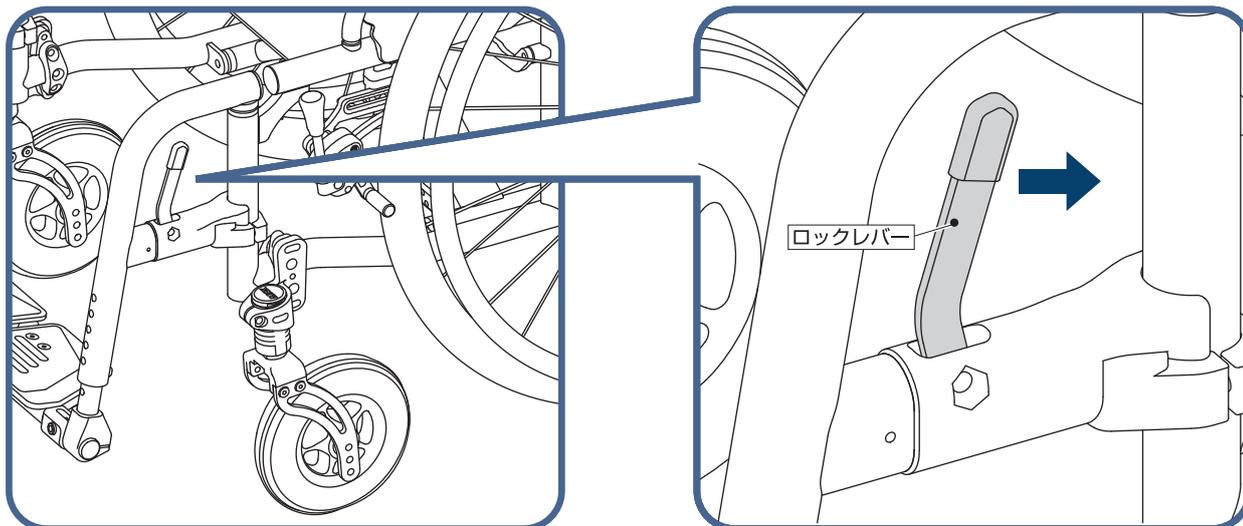
●アジャスタブルキャストケース固定ボルトを外したときは、キャストケースの高さがずれないように注意してください。  
車いすが傾いて正常な状態でなくなるため、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。

していただく

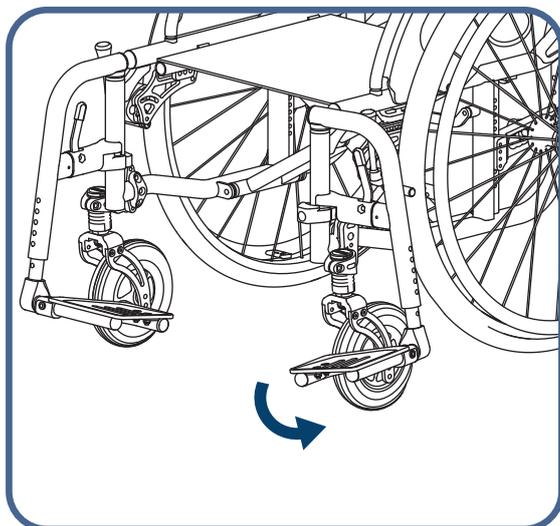
## フット・レッグサポートスイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウトしたり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。また、片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

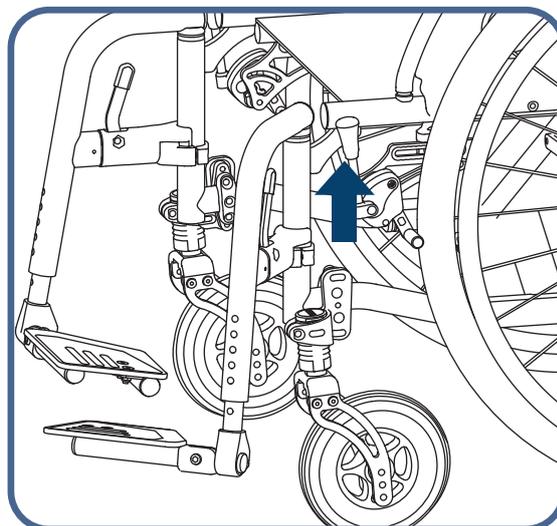
① ロックレバーを押し、ロックを解除します。



② レッグサポートを開くように外側に回転させます。  
(内側にも回転可能です。)



③ レッグサポートを取り外すときは、  
外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



### ⚠ 注意

- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。  
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

### ⚠ 注意

- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

## オプション部品

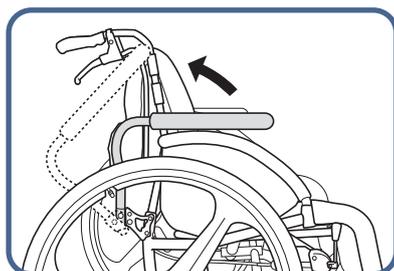
### ストレートアームサポート(スタンダード・サイドガード付タイプ)

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

- 肘を掛けて姿勢を安定させることができます。
- 乗り移りの時は、ストレートアームサポートを跳ね上げることができるので、便利です。
- 高さを10mm間隔で調整することができます。

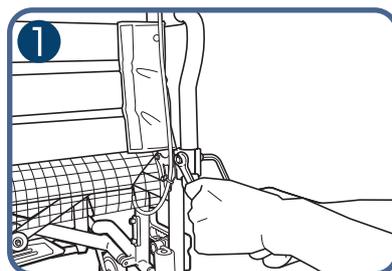
#### 〈跳ね上げの方法〉

ストレートアームサポートを後方へ跳ね上げる。

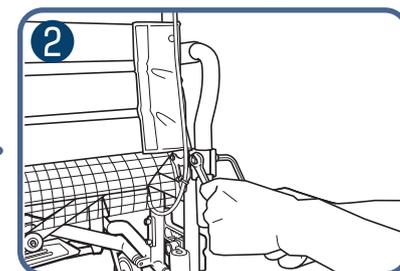


#### 〈高さの調整方法〉

① 六角レンチとスパナを用いて、ボルトとナットを外す。



② 高さを調整し、六角レンチとスパナを用いて、ボルトとナットを完全にしめる。



#### ⚠ 注意

- ストレートアームサポートを戻すときは、確実に最後まで戻してください。使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

#### ⚠ 注意

- ストレートアームサポート高さ調整後は、ストレートアームサポートが確実に固定されていることを確認してください。使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

#### ⚠ 注意

- ストレートアームサポートの高さ調整後は、以下の点を確認してください。
  - ・跳ね上げたときに完全に跳ね上がるか、跳ね上げに支障はないか。
  - ・ストレートアームサポートを戻したとき、駆動輪に接触しないか。接触した場合は、ただちに接触しない高さにしてください。部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

#### ⚠ 注意

- 車軸位置を変更された時は、必ずストレートアームサポートの跳ね上げ動作を確認してください。場合によっては、パイプ等のすき間で指や手などを挟んでケガをする原因となります。

していただく

### グリップ(直角・Rタイプ)

- 介助者が車いすを押す場合に使用します。
- 介助者が車いすを押して段差を乗り越える場合は、必ず、オプション品のティッピングレバーと一緒にご使用ください。→P.23ティッピングレバー
- グリップを交換する場合は、P.12「バックサポート高さの調整」と同様の手順で交換してください。

#### 〈車いすを押す場合〉

グリップを握って車いすを押す。



#### ⚠ 警告

- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



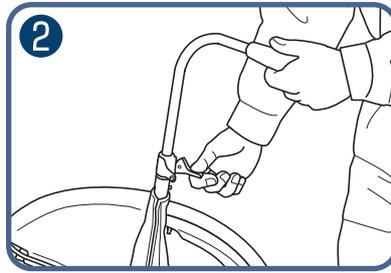
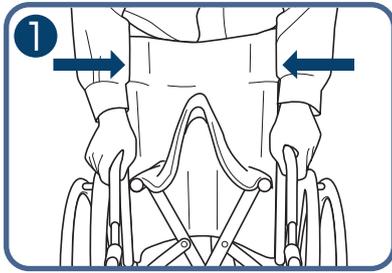
してはいけません

## 背折れ

- 車いすがよりコンパクトに折りたたむので、車に搭載する場合や収納する場合などに便利です。

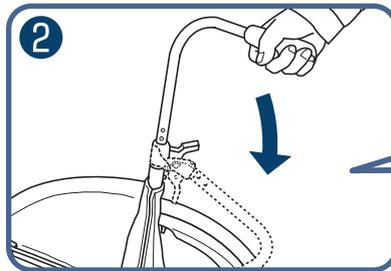
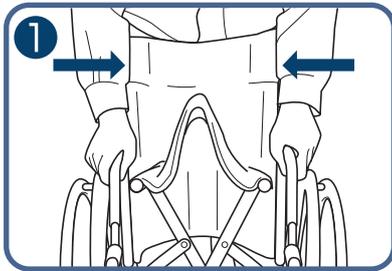
### 〈折りたたみ方〉

- ① 車いすを折りたたむ。  
(→P.26車いすの折りたたみ方)
- ② ロックレバーを倒し、グリップを倒す。

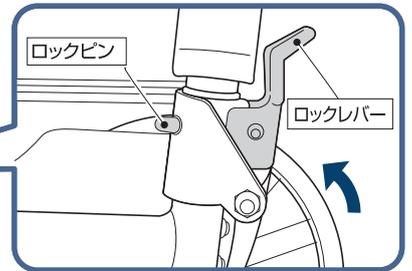


### 〈起こし方〉

- ① 車いすが折りたたまれていることを確認する。
- ② グリップを持ち上げる。

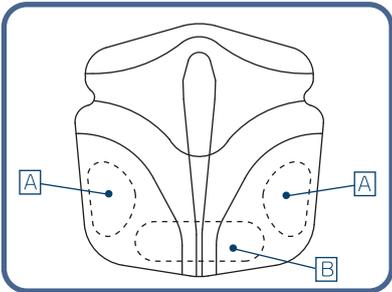


ロックレバーが起きて、ロックピンが出ていることを確認する。



## デラックスシート

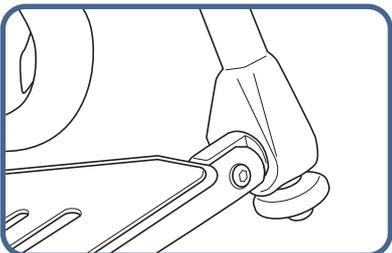
- ユーザーに合わせ、付属のパットを入れてクッションの厚みを調整できます。  
デラックスシートの内側にA.体幹パット B.ランバーサポートを出し入れするポケットがあります。



## ドアローラー

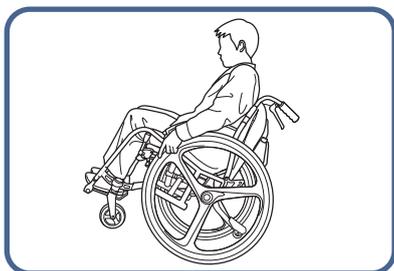
- 車いすが壁に接触した時、壁が傷つくのを防ぎます。  
また、壁に接触しても、ローラーが回るので、スムーズに動きます。

### セパレートステップ・T.S.Sに装備



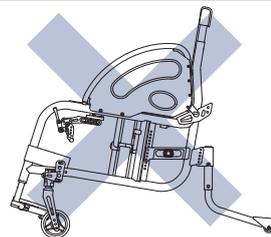
## 転倒防止

- 前輪を上げた時や車いすの後方に力が加わった時、車いすが後方に転倒するのを防ぎます。



### 警告

- ホイールを外した状態で、転倒防止ユニットの車輪を駆動輪代わりにして使用しないでください。  
車いすが破損して、転倒・転落事故の原因となります。



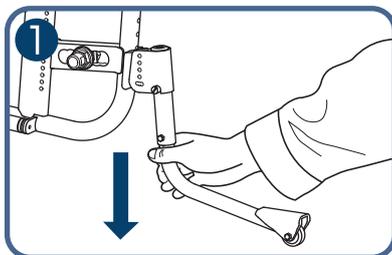
してはいけない

## CROSS LINE.S-MAX用転倒防止の場合

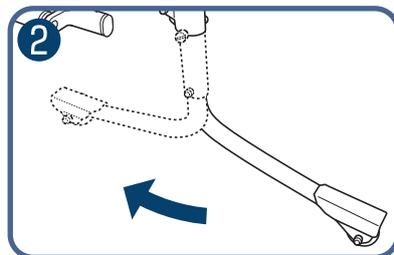
- 使用しない時には、転倒防止を収納しておくことができます。

### 〈収納時〉

- 1 回転シャフト部の転倒防止パイプを真下に下げます。

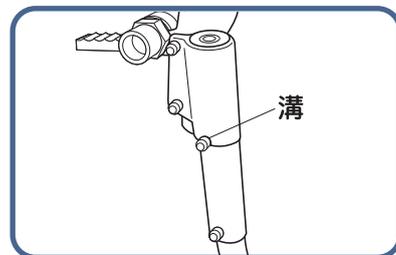


- 2 転倒防止パイプを下げたまま、内回りで前方へ回転させます。



### 〈使用時〉

収納時の逆で、後方へ回転させますが、その時、ピンを溝にはめ、ロックしてください。



### 注意

- 転倒防止使用時は、必ずピンが溝にはまって確実にロックされていることを確認してください。  
転倒防止機能が動かなくなり、事故の原因となります。

していただく

## ティッピングレバー

- 介助者が車いすを押して、段差を乗り越える際に、ティッピングレバーを踏むと乗り越えやすくなります。

- 1 グリップを持ち、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ、前輪を段上に乗せる。



- 2 後輪を浮かせながら、車いすを前方に進めて、後輪も段上に乗せる。



### 警告

- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。  
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



### 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

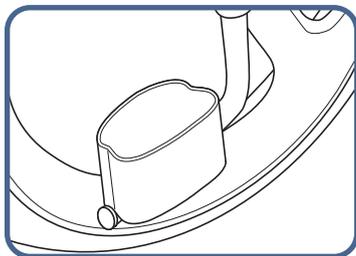
してはいけない

してはいけない

## ステッキホルダー

- 杖を使用される方は、杖を入れておくことができます。

取付方法は取扱説明書を商品と一緒に同梱します。

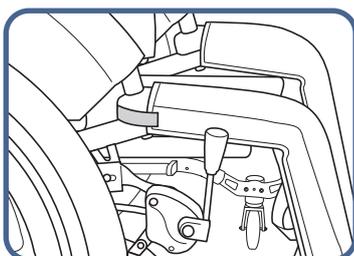
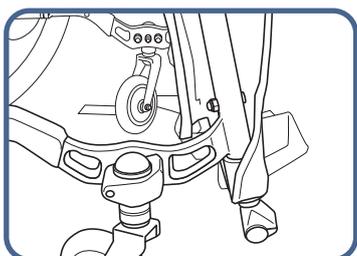


## ストレッチレッグカバー

- シートサイドパイプやレッグパイプを握るとき、冷たくなく、ソフトな感触です。

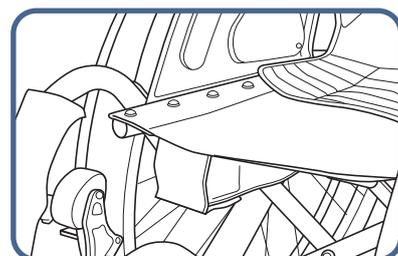
レッグカバーの切り込みをキャスタープレートに合わせ、下から順にパイプに巻きつけます。

マジックテープをアームパイプに引っかけてレッグカバーにとめる。



## カテーテルポケット

- カテーテルを入れるものです。取り外しのできるマジック式です。座シート裏面にマジック式にて取り付けます。



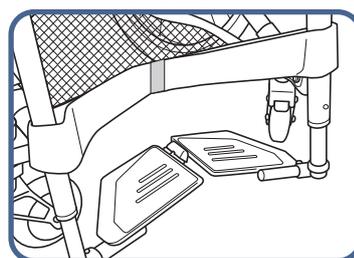
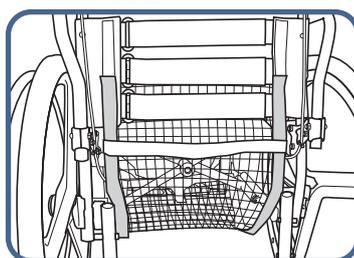
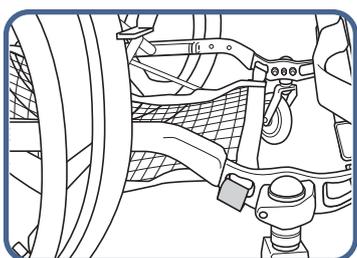
## ノンスリップネット

- 物を入れて置くのに便利です。

マジックテープをベースパイプに巻きつけます。

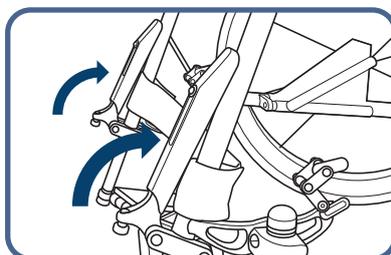
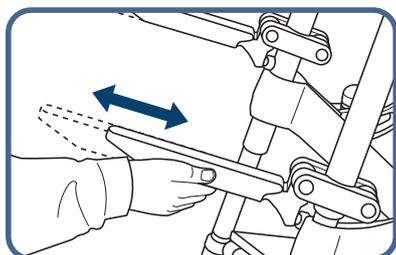
後方のマジックテープは、背張りベルトの裏面に固定します。

前方中央のベルトは、場合によっては、レッグサポートに固定してもよいです。



## フロントキャリア

- 大きな荷物を乗せることができるので、持ち運びに便利です。3段階で伸び縮みします。使わないときは、たたんでおくことができます。



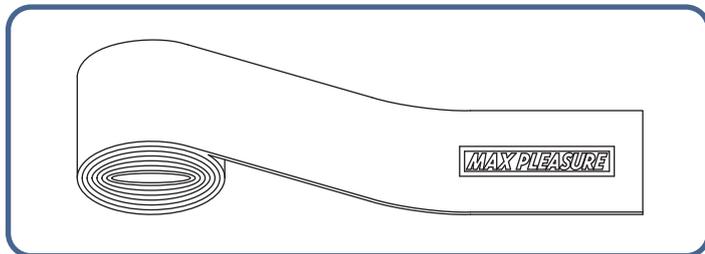
## ⚠ 注意

- 重い物を乗せないでください。前方へ転倒する原因となります。

してはいけな

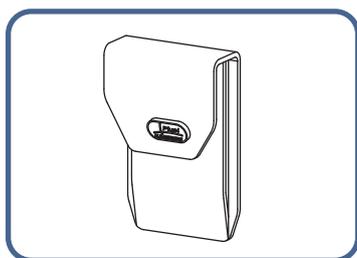
## ストレッチベルト

- 体を固定するためのベルトです。  
80,120,160mmの3種類の幅があります。



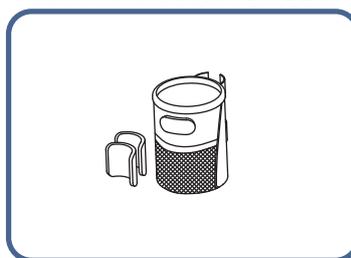
## プラスポケット

- 用途にあわせてポケットを増やすことができます。  
取り外しのできるマジック式です。



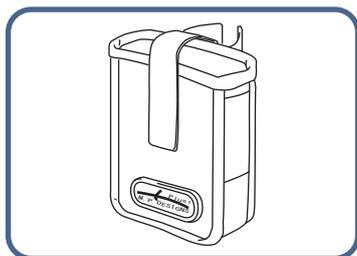
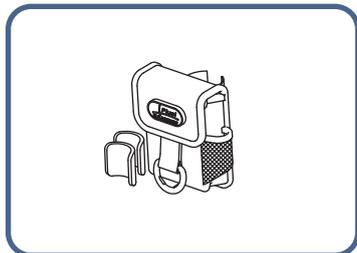
## ドリンクホルダー

- フットサポートパイプに取り付けるドリンクホルダーです。  
取り外しのできるマジック式です。  
レッグパイプに取り付けてください。



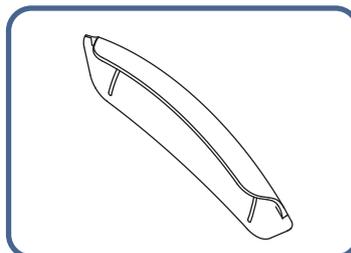
## モバイルフォンケース スマートフォンケース

- フットサポートパイプに取り付ける携帯電話入れです。  
取り外しのできるマジック式です。  
レッグパイプに取り付けてください。



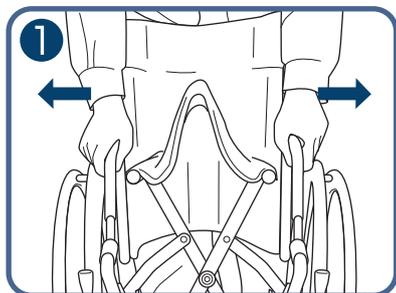
## フィンガード

- 布製サイドガードには取り付けできません。  
サイドガード外側に両面テープで貼  
付けます。

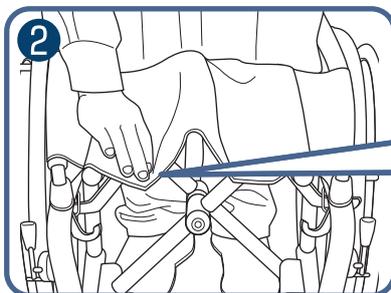


## 車いすの拡げ方

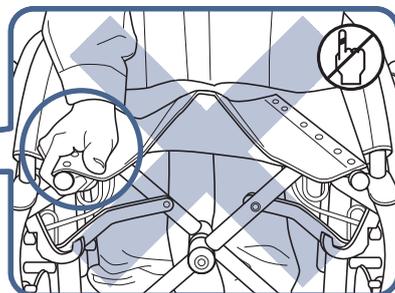
① バックサポートパイプもしくはアームパイプを持って左右に開く。



② シートパイプの上を手のひらで押さえ、完全に開く。



※手・指挟みに注意



③ 座クッションを座シートの上に置く。(座クッションを装着する場合)

### ⚠ 注意

●車いすを拡げる時に、シートパイプの横や下に、手や指を入れないでください。パイプとパイプの間に手や指を挟んでケガをする原因となります。

してはいけない

### ⚠ 警告

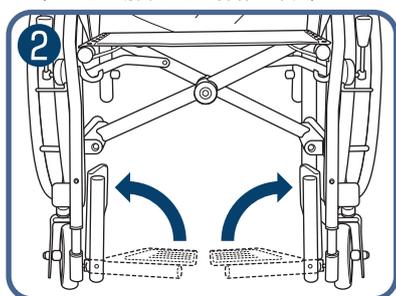
●車いすを拡げた時、シートパイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因となります。

していただく

## 車いすの折りたたみ方

① 座クッションを外す。(座クッションを装着していた場合)

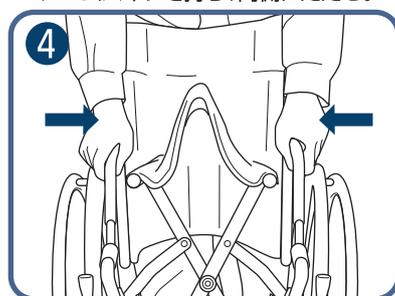
② フットサポートを跳ね上げる。(T.S.Sの場合は、この操作は不要)



③ 座シートの前方の中央を持ち上げる。



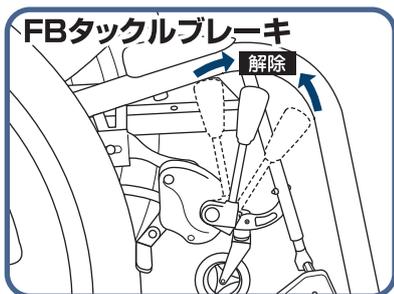
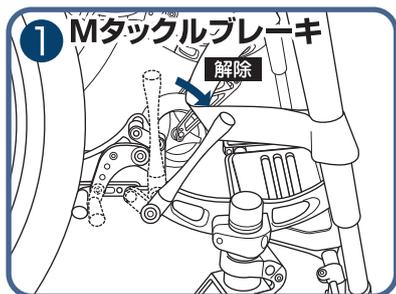
④ 左右のフットサポートパイプもしくはアームパイプを持ち、内側にたたむ。



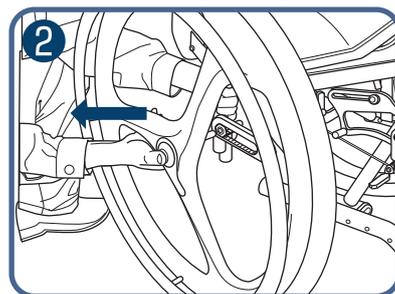
## 着脱式駆動輪の外し方

●車に搭載する時やパンク修理の時などは、駆動輪を外すと、便利です。

① ブレーキが解除されていることを確認する。



② フレームを押さえ、駆動輪中央のロックピンを親指で押したまま、駆動輪を引き抜きます。



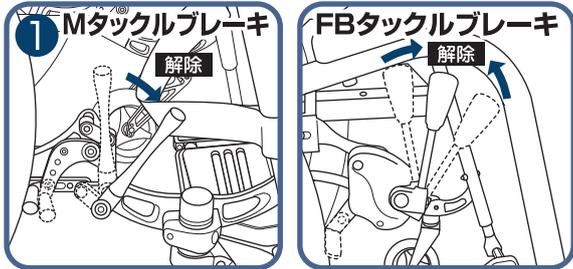
### ⚠ 警告

●使用中は駆動輪中央のロックピンを押さないでください。駆動輪が外れて、転倒・転落事故の原因となります。

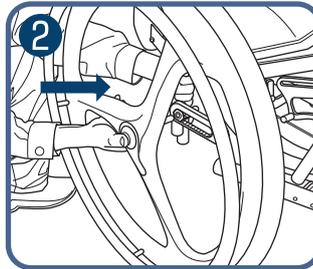
してはいけない

## 着脱式駆動輪の取付け方

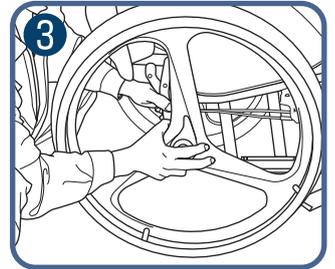
① ブレーキが解除されていることを確認する。



② 駆動輪中央のロックピンを親指で押したまま、シャフトを車軸穴に真っ直ぐに奥まで差込み、押している指を離す。



③ 駆動輪が確実に固定されたか確認する。



### 警告

- ご使用前は、駆動輪が確実に固定されていることを確認してください。使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

## 乗り方・降り方

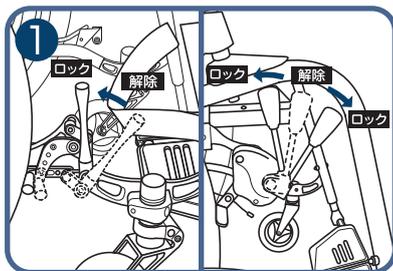
### 警告

- 車いすに乗り降りする際は、必ずブレーキをロックしてください。車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 乗り降りの際、介助が必要な方は、必ず介助者が付き添ってください。バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

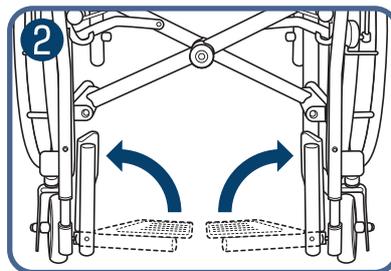
していただく

### 乗る時

① ブレーキを両側ロックする。  
(→P.8ブレーキの使用方法)



② フットサポートを跳ね上げる。  
(T.S.S.の場合は、この操作は不要です)

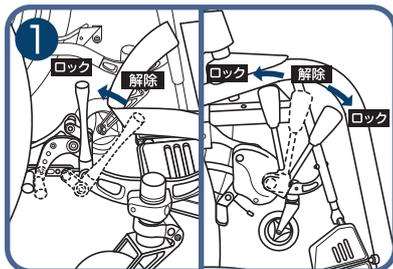


③ ゆっくりと車いすに乗り込む。  
④ フットサポートに足を乗せる。

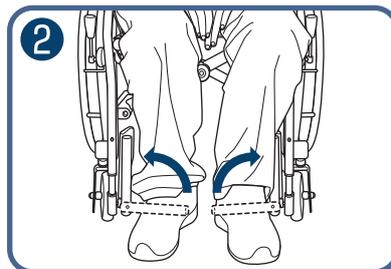


### 降りる時

① ブレーキを両側ロックする。  
(→P.8ブレーキの使用方法)



② フットサポートを上げ、足を下ろす。  
(T.S.S.の場合は、この操作は不要です)



③ ゆっくりと車いすから降りる。



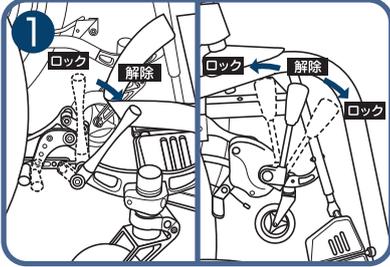
### 警告

- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。(車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

## 動かし方

① ブレーキロックを解除する。



〈ご自身で操作する場合〉

② ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動する。



〈介助される場合〉

グリップやバックサポートパイプを支持して、押してもらいます。

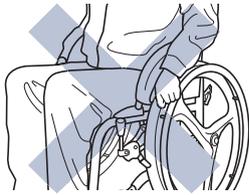
### 警告

- 車いすを押す時は、スピードを出さないでください。  
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

してはいけない

### 注意

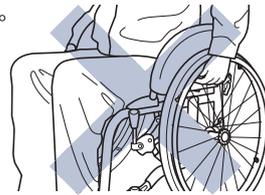
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。  
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。



してはいけない

### 注意

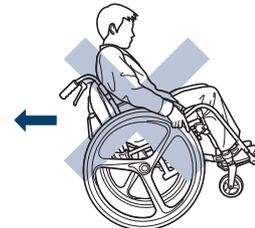
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。  
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。



してはいけない ※このような場合にはマツナガオプションのスポークカバーのご使用をおすすめします。

### 警告

- バックしながら急停止しないでください。  
転倒事故の原因となります。



してはいけない

### 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。  
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋(オプション)をご使用ください。

してはいけない

### 警告

- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

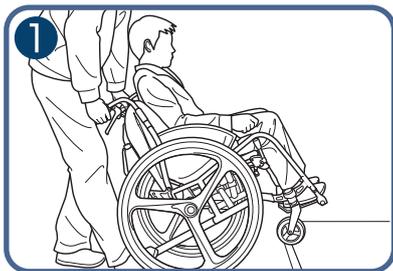
- ・坂道の登り下り
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・電車への乗車、下車
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行
- ・踏切の横断
- ・悪路
- ・段差乗り越え

## 段差の乗りこえ方

介助者援助をお願いしてください。

● 段差を乗り越える場合、介助者の方は、オプション品のティッピングレバーを使用してください。

① グリップを持ち、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ、前輪を段上に乗せる。



② 後輪を浮かせながら、車いすを前方に進めて、後輪も段上に乗せる。



### 警告

- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。  
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



してはいけない

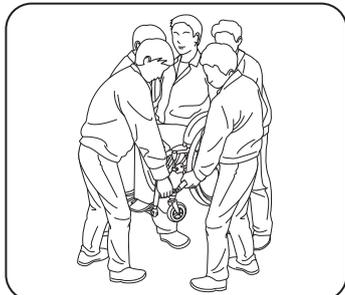
### 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

してはいけない

## 車いすの安全な持ち方

- 車いすに人が乗った状態で、車いすを持ち上げて移動する時は、2名～4名で車いすの固定されたフレーム部のところを指定して安全に介助してもらいましょう。可動部分は持たないでください。



### 可動部分の詳細

- ・ストレートアームサポート部
- ・フット・レッグサポートスイング部

等

### 警告

- 車いすに人が乗った状態で車いすを持ち上げる時は、声をかけ合って、皆同時にゆっくりと持ち上げていただくようにしてください。持ち上げたとき座面が斜めになり、バランスをくずして、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

## 外出時の注意

介助者援助をお願いしてください。

- 坂道の登り下りや踏み切りなど凹凸のある路面でご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

### 登り坂

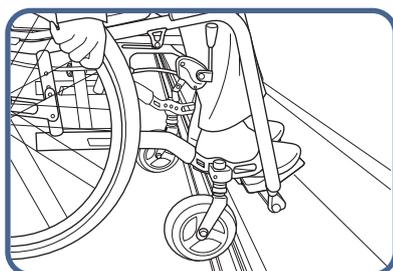
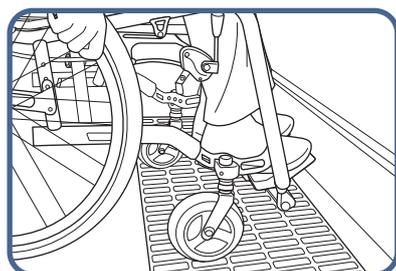
### 下り坂



### 警告

- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。（前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく



### 警告

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。



### 警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、溝にキャストが落ち込まないように必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。車輪が溝にはまって転倒・転落事故の原因となります。

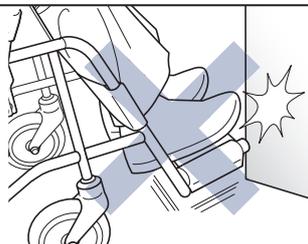
していただく

してはいけない

## 介助者の方へ

### ⚠ 注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。  
ケガの原因となります。

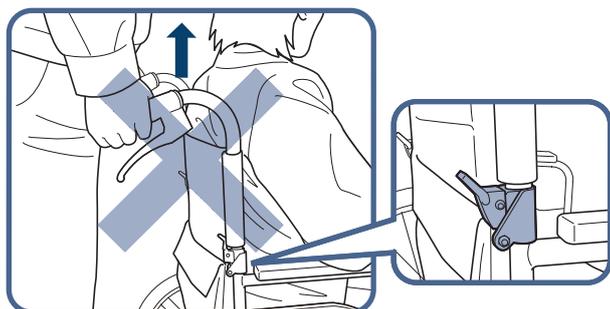


していただく

### ⚠ 警告

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。  
ケガや転倒・転落事故の原因となります。

していただく



### ⚠ 注意

- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。  
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

## その他の注意

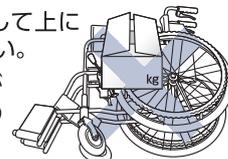
### ⚠ 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。  
タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。  
(転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

### ⚠ 注意

- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。  
重みで車輪フレームが曲がったりして故障の原因になります。



# もしこんなトラブルが発生したときは

- 車いすを使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に、下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気を入れてもすぐに抜ける	タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	バルブは劣化していませんか	バルブを交換してください
走行操作が重い	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	駆動輪・キャスト輪(前輪)に、毛髪、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	キャスト輪(前輪)が片減りしていませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	タイヤは摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキの動きがかたい		回動部にグリスを塗布してください
駆動輪が抜けにくい	ブレーキがかかった状態になっていませんか	ブレーキを解除してください
車いすがスムーズに折りたためない動きがかたくなっていませんか	折りたたもうとしたとき、T.S.SⅢの動きがかたくなっていませんか	回動部にグリスを塗布してください

# メンテナンス

●車を快適に長くご使用いただくために定期的にメンテナンスを行ってください。

- \* 適切な工具で、部品を損傷しないように作業してください。
- \* 使用部品は、マツナガ純正部品を使用し、分解した部品は、順序良く整理して汚れを落とし、元通りに組み立ててください。
- \* 作業に不安のあるときは、販売店にご相談ください。

## 点検

点検	整備
各部のゆるみ、ずれ、ねじれ、傷、破損はないか	異常があれば修正して元通りにする。 程度によっては、販売店に相談して交換する。
タイヤの亀裂、損傷、摩耗はないか	使用限度を超えたものは、交換する。
タイヤの空気は適正であるか	空気を入れる。 <b>適正タイヤ空気圧</b> ・22×1、24×1……………700kPa(7.0kgf/cm <sup>2</sup> )
シートの破損、糸切れはないか	使用限度を超えたものは、交換する。

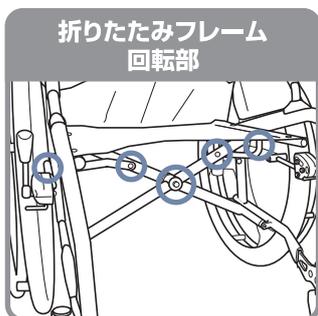
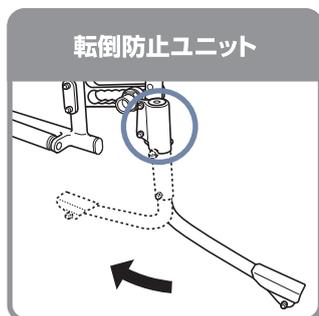
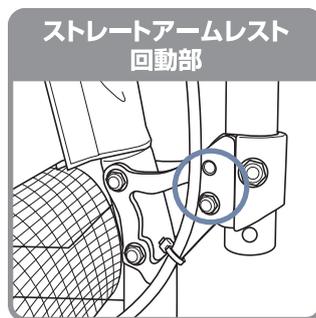
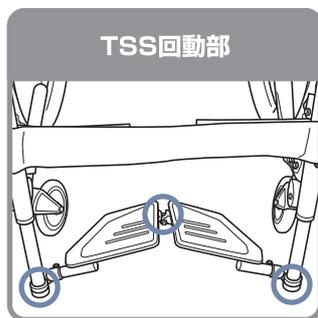
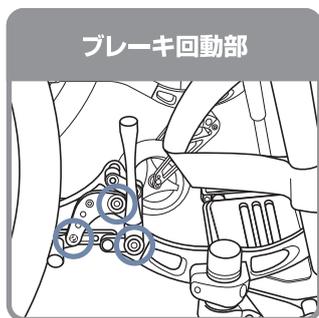
\* 点検後、試乗して確認し、異音、違和感のある場合は、再度調整してください。

## お手入れ方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。  
揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。  
ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧は、最適タイヤ空気圧を保ってください。  
空気圧が少ないときは、補充してください。  
\* オプションタイヤを使用の場合は、タイヤに記載の空気圧を保ってください。

### グリスを塗布する箇所

●次の箇所には、定期的にグリスを塗布してください。



# 仕様諸元

## CROSS LINE 仕様諸元

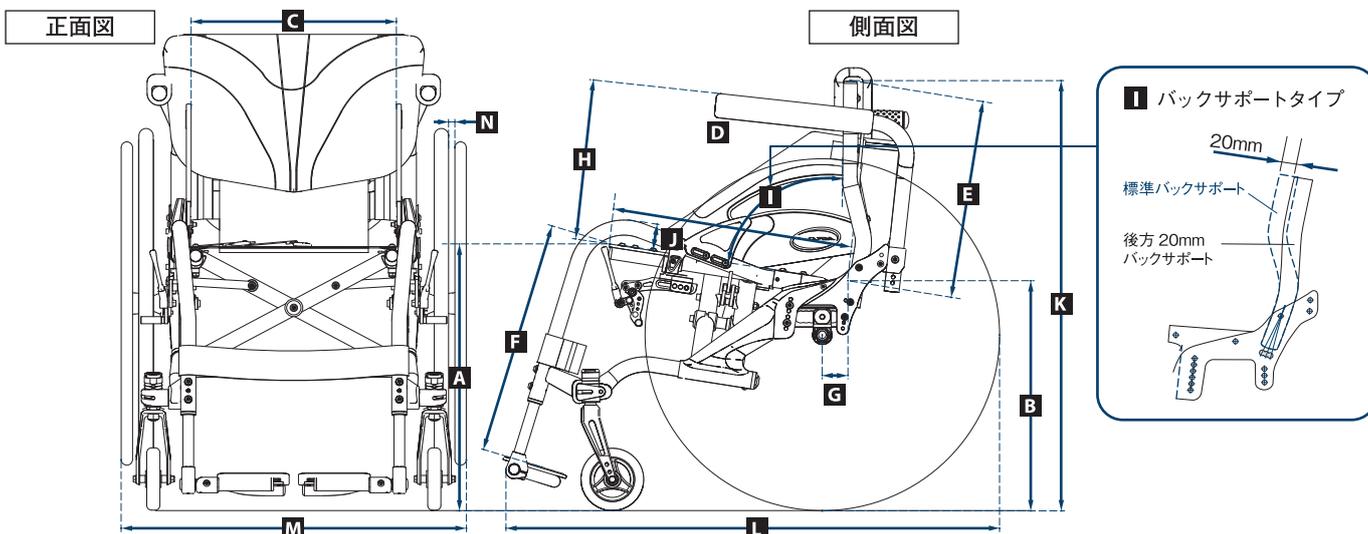
(単位: mm)

A 前座高 ※1 ※2 キャストサイズ			B 後座高 ※2 タイヤサイズ			A 前座高 ※1 ※2 タイヤサイズ			B 後座高 ※2 タイヤサイズ			A 前座高 ※1 ※2 キャストサイズ			B 後座高 ※2 タイヤサイズ		
3.5インチ / 4インチ		5インチ	22インチ		3.5インチ / 4インチ		5インチ	24インチ		3.5インチ / 4インチ		5インチ	24インチ				
MaxFork	Froglegs	MaxFork	25-501	MaxFork	Froglegs	MaxFork	25-540	MaxFork	Froglegs	MaxFork	32-540						
390			CL-R 340 CL-Xは設定 できません	395	—	—	CL-R 355 CL-Xは設定 できません	405	—	—	CL-R 365 CL-Xは設定 できません						
400	—	—		405	—	—		415	—	415 ※5							
410	—	—		415	—	415		425	425	425							
420	420	420		425	425	425		435	435	435							
—	—	—		435	435	435		445	445	445							
390	—	—	CL-R 350 CL-X 350	395 ※5	—	—	CL-R 365 CL-X 365	405 ※5	—	—	CL-R 375 CL-X 375						
400	—	—		405	—	—		415	—	—							
410	—	—		415	—	—		425	425	425 ※5							
420	420	420		425	425	425 ※5		435	435	435							
430	430	430		435	435	435		445	445	445							
390 ※5	—	—	CL-R 360 CL-X 360	405 ※5	—	—	CL-R 375 CL-X 375	415 ※5	—	—	CL-R 385 CL-X 385						
400	—	—		415	—	—		425	425 ※5	—							
410	—	—		425	425	425 ※5		435	435	435 ※5							
420	420	420		435	435	435		445	445	445							
430	430	430		445	445	445		455	455	455							
400 ※5	—	—	CL-R 370 CL-X 370	415 ※5	—	—	CL-R 385 CL-X 385	425 ※5	—	—	CL-R 395 CL-X 395						
410	—	—		425	425 ※5	—		435	435 ※5	—							
420	420	420		435	435	435 ※5		445	445	445 ※5							
430	430	430		445	445	445		455	455	455							
440	440	440		455	455	455		465	465	465							
410 ※5	—	—	CL-R 380 CL-X 380	425 ※5	—	—	CL-R 395 CL-X 395	435 ※5	—	—	CL-R 405 CL-X 405						
420	420 ※5	—		435	435 ※5	—		445	445 ※5	—							
430	430	430 ※5		445	445	445 ※5		455	455	455 ※5							
440	440	440		455	455	455		465	465	465							
450	450	450		465	465	465		—	—	475							
420 ※5	—	—	CL-R 390 CL-Xは設定 できません	435 ※5	—	—	CL-R 405 CL-Xは設定 できません	445 ※5	—	—	CL-R 415 CL-Xは設定 できません						
430	430 ※5	—		445	445 ※5	—		455	455 ※5	—							
440	440	440 ※5		455	455	455 ※5		465	465	465 ※5							
450	450	450		465	465	465		—	—	475							
460	460	460		—	—	475		—	—	—							

<b>C</b> 座幅	300・320・340・360・380・400・420	<b>J</b> プッシュアップユニット	ショート 65・ロング 76
<b>D</b> 座奥行 ※6	340・360・380・400・420	<b>K</b> 全高 ※9	650
<b>E</b> バックサポート高	ロータイプ 300~340 / ミドル 340~380 / ハイ 380~420 (10ピッチ)	<b>L</b> 全長 ※9	ショート 805・ロング 845
<b>F</b> フットサポート長 ※3	ハイマウントステップ 195・210・225・240・255・[290] その他のステップ 330・345・360・375・390・405・420・435	<b>M</b> 全幅 ※9	520
<b>G</b> 車軸位置 ※6	CL-R 10・20・30・40・50 / CL-X 40	<b>N</b> ハンドリム間隔	5・10・15・20・25
<b>H</b> ストレートアームサポート高 ※4	ロータイプ 250~290 / ハイ 290~320 (10ピッチ)	キャンパー	2°選択可 CL-X 選択不可
<b>I</b> バックサポート角度	86°・90°・94° 可変	重量 ※9	10.5kg

備考 ※1 座奥行380mmの設定です。  
 ※2 座奥行 車軸位置の設定により上記寸法より5mmほど寸法が変わる場合がございます。  
 ※3 前座高により長さが確保できない場合がございます。  
 ※4 ホイールサイズ 後座高の設定により設定できない場合がございます。  
 ※5 TSSフットサポートの選択はできません。  
 ※6 後方バックサポートを選択した場合上記の寸法より20mmプラスになります。

※9 次の仕様を元に算出しております。  
 後座高355mm / 前座高425mm / 座幅320mm / バックサポート高ロータイプ300mm / フットサポート長375mm / ホイール3P.act25-540 / MAXフォークキャストサイズ90mm / 車軸位置40mm / ハンドリムチタンツメ間隔10mm / セパレートフットサポート / Mタックル50mm / その他オプションなし [ ]は出荷時の寸法です。



# S-MAX 仕様諸元

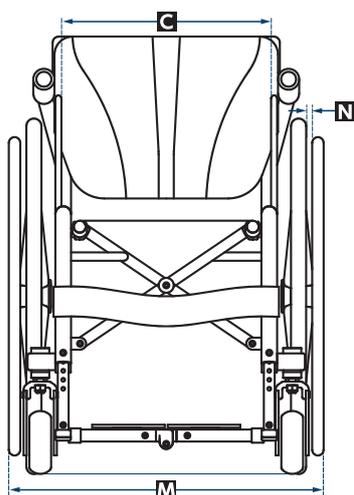
(単位: mm)

A 前座高 ※1※2	B 後座高 ※1※2							
	24 インチ				22 インチ			
	360	380	400	420	345	365	385	405
390	○※5	×	×	×	○※5	×	×	×
400	○	×	×	×	○	×	×	×
410	○	○※5	×	×	○	○※5	×	×
420	○	○	×	×	○	○	×	×
430	○	○	○※5	×	○	○	○※5	×
440	×	○	○	×	×	○	○	×
450	×	○	○	○※5	×	○	○	○※5
460	×	×	○	○	×	×	○	○
470	×	×	○	○	×	×	○	○
480	×	×	×	○	×	×	×	○
490	×	×	×	○	×	×	×	○
C	座幅		300・320・340・360・380・400・420 から選択					
D	座奥行		340・360・380・400・420 から選択					
E	バックサポート高		ロータイプ 300～380 / ハイタイプ 370～450					
F	フットサポート長 ※3		ハイマウントステップ 200～320 専用部品の対応で同梱出荷 その他のステップ 330・345・360・375・390・405・420・435					
G	車軸位置		30・40・50・60・70					
H	ストレートアームサポート高 ※4		カーボン製ロータイプ 250～290 / カーボン製ハイタイプ 290～320 (10ピッチ) アルミ製 260～290 (10ピッチ)					
I	バックサポート角度		84°					
J	プッシュアップユニット		60 (ウェーブのみ)					
K	全高 ※6		740					
L	全長 ※6		785					
M	全幅 ※6		505					
N	ハンドリム間隔		5・10・15・20・25					
	キャンパー		2° 選択可能					
	フレーム種類		ウェーブ・ショート・ウェーブ・ロング / フラット・ショート・フラット・ロング					
	重量 ※6		10.5kg					

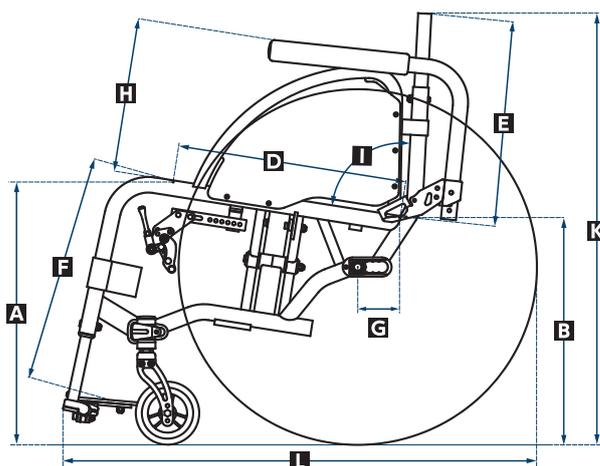
- 備考 ※1 座奥行380mmの設定です。  
 ※2 座奥行、車軸位置の設定により、5mm程度寸法が変わる場合がございます。  
 ※3 前座高により長さが確保できない場合がございます。  
 ※4 ホイールサイズ、後座高の設定により設定できない場合がございます。  
 ※5 フラットフレームは、TSSフットサポートの選択はできません。  
 ※6 次の仕様を元に算出しております。  
 後座高380mm / 前座高440mm / 座幅320mm / バックサポート高ロータイプ340mm / フットサポート長375mm / ホイールスポークホイール / 4インチPUキャスター / 車軸位置70mm / ハンドリムアルミ製ツメ間10mm / フットサポートTSSIV / Mタックルプレーキ / その他オプションなし

注意 後座高420mm(24インチ)、405mm(22インチ)は、ショートフレーム選択不可です。  
 また、後座高360mm(24インチ)、345mm(22インチ)のロングフレームも選択不可です。

正面図



側面図



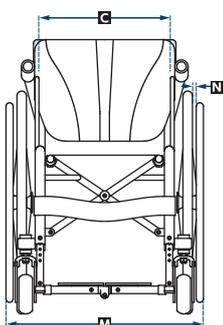
# A-MAX 仕様諸元

(単位：mm)

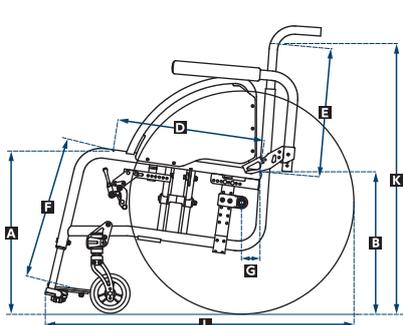
A 前座高 ※1 ※2	B 後座高 ※1 ※2				A 前座高 ※1 ※2	B 後座高 ※1 ※2					
	24インチ					22インチ					
	360	380	400	420		345	365	385	405		
390	4"	○ Sフォーク ※5	×	×	×	395	4"	○ Sフォーク	○ Sフォーク ※5	×	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
400	4"	○ Sフォーク	×	×	×	405	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
410	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク ※5	×	×	415	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク ※5	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
420	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×	425	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×
	5"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	
430	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク ※5	×	435	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク ※5
	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	
440	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	445	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク
	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	
450	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク ※5	455	4"	×	×	×	○ Mフォーク
	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	○ Mフォーク
460	4"	×	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	465	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	○ Mフォーク
470	4"	×	×	×	×	475	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	×	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	×
480	4"	×	×	×	×	485	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	×	○ Lフォーク	5"	×	×	×	×	×
<b>C</b>	座幅				300・320・340・360・380・400・420 から選択						
<b>D</b>	座奥行				340・360・380・400・420 から選択						
<b>E</b>	バックサポート高				ロータイプ 300~380 / ハイタイプ 370~450						
<b>F</b>	フットサポート長 ※3				ハイマウントステップ 200~320 専用部品の対応で同梱出荷						
					その他のステップ 330・345・360・375・390・405・420・435						
<b>G</b>	車軸位置				30・40・50・60・70						
<b>H</b>	ストレートアームサポート高 ※4				カーボン製ロータイプ 250~290 / カーボン製ハイタイプ 290~320 (10ピッチ)						
					アルミ製 260~290 (10ピッチ)						
<b>I</b>	バックサポート角度				86°						
<b>K</b>	全高 ※6				770						
<b>L</b>	全長 ※6				820						
<b>M</b>	全幅 ※6				505						
<b>N</b>	ハンドリム間隔				5・10・15・20・25						
	キャンバー				設定不可						
	フレーム種類				ショート / ロング						
	重量 ※6				11.2kg~						

- 備考
- ※1 座奥行380mmの設定です。
  - ※2 座奥行、車軸位置の設定により、5mm程度寸法が変わる場合がございます。
  - ※3 前座高により長さが確保できない場合がございます。
  - ※4 ホイールサイズ、後座高の設定により設定できない場合がございます。
  - ※5 TSSフットサポートの選択はできません。
  - ※6 次の仕様を元に算出しております。  
後座高380mm / 前座高440mm / 座幅320mm / バックサポート高ロータイプ340mm / フットサポート長375mm / ホイールスポーク / ホイール4インチPUキャスター / 車軸位置30mm / ハンドリムアルミ製ツメ間10mm / フットサポートTSSIV / Mタックルブレーキ / その他オプションなし

正面図



側面図



# A-MAX Swing 仕様諸元

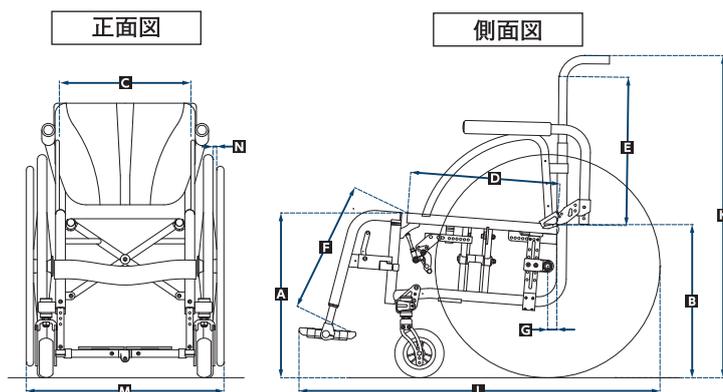
(単位: mm)

A 前座高 ※1 ※2	B 後座高 ※1 ※2				A 前座高 ※1 ※2	B 後座高 ※1 ※2					
	24インチ					22インチ					
	360	380	400	420		345	365	385	405		
390	4"	○ Sフォーク	×	×	×	395	4"	○ Sフォーク	○ Sフォーク	×	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
400	4"	○ Sフォーク	×	×	×	405	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
410	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×	415	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×
	5"	×	×	×	×	5"	×	×	×	×	
420	4"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×	425	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×
	5"	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	×	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	
430	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	435	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク
	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	
440	4"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	445	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク
	5"	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	×	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	
	6"	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	×	6"	×	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	
450	4"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	455	4"	×	×	×	○ Mフォーク
	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	○ Mフォーク
	6"	×	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	6"	×	×	×	×	○ Lフォーク
460	4"	×	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	465	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	○ Mフォーク	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	○ Mフォーク
	6"	×	×	○ Lフォーク	○ Lフォーク	6"	×	×	×	×	○ Lフォーク
470	4"	×	×	×	×	475	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	×	○ Mフォーク	5"	×	×	×	×	×
	6"	×	×	×	○ Lフォーク	6"	×	×	×	×	×
480	4"	×	×	×	×	485	4"	×	×	×	×
	5"	×	×	×	○ Lフォーク	5"	×	×	×	×	×
	6"	×	×	×	○ Lフォーク	6"	×	×	×	×	×
<b>C</b>	座幅				300・320・340・360・380・400・420 から選択						
<b>D</b>	座奥行				340・360・380・400・420 から選択 ※6						
<b>E</b>	バックサポート高				ロータイプ 300~380 / ハイタイプ 370~450						
<b>F</b>	フットサポート長 ※3				ハイマウントステップ 200~320 専用部品の対応で同梱出荷 その他のステップ 330・345・360・375・390・405・420・435						
<b>G</b>	車軸位置				30・40・50・60・70						
<b>H</b>	ストレートアームサポート高 ※4				カーボン製ロータイプ 250~290 / カーボン製ハイタイプ 290~320 (10ピッチ) アルミ製 260~290 (10ピッチ)						
<b>I</b>	バックサポート角度				86°						
<b>K</b>	全高 ※5				770						
<b>L</b>	全長 ※5				820						
<b>M</b>	全幅 ※5				505						
	ハンドリム間隔				5・10・15・20・25						
	キャンパー				設定不可						
	フレーム種類				スイングアウト						
	重量 ※5				11.8kg~						

- 備考
- ※1 座奥行380mmの設定です。
  - ※2 座奥行、車軸位置の設定により、5mm程度寸法が変わる場合がございます。
  - ※3 前座高により長さが確保できない場合がございます。
  - ※4 ホイールサイズ、後座高の設定により設定できない場合がございます。
  - ※5 次の仕様を元に算出しております。  
後座高380mm / 前座高440mm / 座幅320mm / バックサポート高ロータイプ340mm / フットサポート長375mm / ホイールスポーク / ホイール4インチPUキャスター / 車軸位置30mm / ハンドリムアルミ製ツメ間10mm / フットサポートTSSIV / M タックルプレーキ / その他オプションなし
  - ※6 座奥行420mmを選択した場合スイングインの機能で干渉が発生します。

注意

- TSS等ジョイントステップは一切選択はできません。
- 前座高440mm以下には6インチキャスタは選択できません。



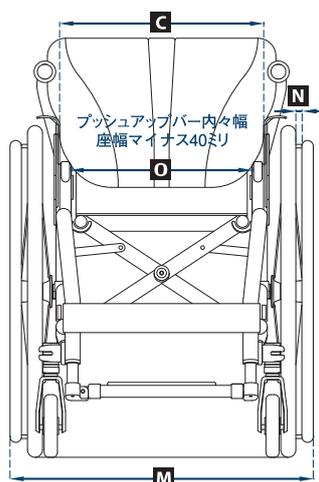
## Suai 仕様諸元

単位：mm(表記のないものに関して)

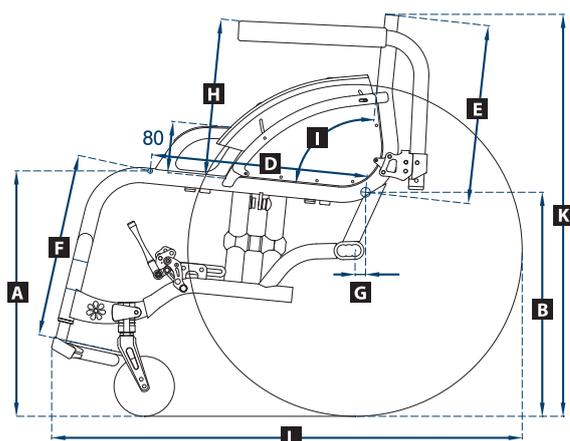
A	前座高 ※1		3.5インチ		4インチ		5インチ		
			MaxFork	Froglegs	MaxFork	Froglegs	MaxFork	Froglegs	
B	後座高	22インチ	360	390	—	390	—	—	—
			375	400	—	400	—	—	—
			390	410	410	410	—	410	—
			—	420	420	420	420	420	—
			—	405	—	405	—	—	—
			—	415	415	415	—	—	—
		24インチ	370	425	425	425	425	425	—
			385	435	435	435	435	435	—
			—	420	420	420	—	—	—
			—	430	430	430	—	430	—
			—	440	440	440	440	440	—
			—	—	—	—	450	450	—
	—	400	—	400	—	—	—		
	—	410	410	410	—	—	—		
	—	420	420	420	—	420	—		
	—	430	430	430	430	430	—		
	—	415	415	415	—	—	—		
	—	425	425	425	—	425	—		
	—	435	435	435	435	435	—		
	—	—	—	445	445	445	—		
	—	430	430	430	—	—	—		
	—	440	—	440	—	440	—		
	—	—	—	450	450	450	—		
	—	—	—	—	—	460	—		
C	座幅 [ ]寸法 O		※2 [280]320・[300]340・[320]360・[340]380・[360]400・[380]420						
D	座奥行		340・360・380・400(※5)						
E	バックサポート高		ロー 300・315・330(可変)		ミディアム 345・360・375(可変)		ハイ 390		
F	フットサポート長 ※3		ショート 300・315・330・345(可変)			ロング 360・375・390・405(可変)			
G	車軸位置		後方 0・10・20(可変)			前方 20・30・40(可変)			
H	ストレートアームサポート高 ※4		265・275・285・295						
I	バックサポート角度		90度						
K	全高 ※5		660						
L	全長 ※5		ショートフレーム 760			ロングフレーム(※6) 800			
M	全幅 ※5		505						
N	ハンドリム間隔 ※5		5・10・15・20						
	重量 ※5		8.9kg						

- 備考 ※1 座奥行360mm設定の寸法です。  
 ※2 [ ]内寸法 O はプッシュアップバーの内々寸法です。 ※3 座高により、長さが確保出来ない場合があります。  
 ※4 ホイールサイズや座高の関係で、高さが設定出来ない場合があります。  
 ※5 次の仕様を基にした寸法です。後座高360/前座高400/座幅340/座奥行360/バックサポート高300/フットサポート長300/車軸位置前方20/スポークホイール22インチ/ハンドリム間隔10/アルミ製ハンドリム/キャストMaxFork3.5インチ/TSSフットサポート/フットサポート長345/Mタックル75mm(3P.actの場合、スポークホイールの場合の全幅より約10mm狭くなります。)  
 ※6 座奥行400mmの場合は、ロングフレームとなります。

正面図



側面図



## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。  
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ● 直射日光が当たるようなところ ● 湿気の多いところ
- 高温室になるところ ● 炎天下になるところ

## 保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)  
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
  1. 火災、天災による故障・損傷の場合
  2. 取扱説明書に記載の使用法・ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
  3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
  4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
  5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または(株)松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

## 保証書

■ご住所 〒 _____ TEL ( _____ ) _____	
■お名前 _____ 様	■お買上げ日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
■販売店 住所 _____ 店名 _____ TEL _____	
(印)	



株式会社 松永製作所  
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484  
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270  
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>



## 株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL 0584-35-1180(代) FAX 0584-35-1270

URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>